

平成 28 年度方針と魅力ある部会づくりについて

新潟県高等学校教育研究会会長
(新潟県立新潟南高等学校長)

青 山 一 春

まず、平成 28 年 4 月に発生しました熊本地震でお亡くなりになられました方々のご冥福と被災された方々の復興を心からお祈りいたします。

さて、平成 28 年 3 月に卒業した平成 25 年度入学生は、全ての教科・科目等が現行学習指導要領に基づく教育課程を全うし巣立っていきました。そして、当然ながら、昨年の大学入試は、全ての教科・科目で現行学習指導要領に基づくものでした。

平成 21 年改訂の現行学習指導要領は、教育基本法改正、学校教育法改正が行われ、知・徳・体のバランスとともに「基礎的な知識及び技能」「これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力」及び「主体的に学習に取り組む態度」を重視し、知識基盤社会の時代において、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」のバランスのとれた「生きる力」をより効果的に育成していくことを目指しているものですが、はたして、新課程第 1 期生にバランスのとれた「生きる力」を身につけさせることができたでしょうか。いずれにしましても、現行学習指導要領に基づく高校教育はこれからが正念場です。その趣旨を踏まえ、引き続き次の 2 点を今年度の方針といたしました。

1 全ての生徒が共通に身に付けるべき資質・能力の育成<共通性の確保>

2 多様な学習ニーズへのきめ細やかな対応<多様化への対応>

各部会では、「習得・活用・探究」という学習過程の中で、グループで話し合い発表し合うなどの言語活動や、他者、社会、自然・環境と直接的に関わる体験活動等を重視した教育研究をこの 1 年間行ってこられたものと思います。

一方で、次期学習指導要領の改訂作業が進んでおり、昨年 8 月に「次期学習指導要領に向けた審議のまとめ」が公表され、「社会に開かれた教育課程」、「育成すべき資質・能力の明確化」、学習指導要領等に基づきどのような教育課程を編成し、実施・評価し改善していくかという「カリキュラムマネジメント」の確立、児童生徒の自信を育み、必要な能力を身に付けていくための「アクティブラーニング」の充実などについて論じられ、これらについても、各部会において、先行して取り組んでいただきました。先進的な取り組みと各部長様のリーダーシップに感謝申し上げます。

また運営面では、今年度から魅力ある部会活動ができるよう会計制度を改めました。各部会におかれましては、より一層部会運営に工夫改善をしていただき、魅力ある高教研、魅力ある部会づくりにご協力をお願いいたします。

最後に、高教研の活動が各学校の活性化や授業改善に繋がり、ひいては新潟県高校生の自己実現に結びつくことを祈念いたしまして、巻頭言とさせていただきます。

平成28年度各部会事業報告

1 国 語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2 地理歴史・公民・・・・・・・・・・・・・・・・	2
3 数 学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
4 理 科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
5 芸 術・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
6 英 語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	12
7 農 業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	13
8 工 業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	19
9 商 業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	26
10 水 産・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	28
11 家 庭 科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	30
12 保 健 体 育・・・・・・・・・・・・・・・・	33
13 生 徒 指 導・・・・・・・・・・・・・・・・	34
14 図 書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	35
15 視 聴 覚・・・・・・・・・・・・・・・・	36
16 定 通・・・・・・・・・・・・・・・・	38
〈研究会一覧〉・・・・・・・・・・・・・・・・	39
平成28年度 理事会記録・・・・・・・・	82
平成28年度 活動から・・・・・・・・	95
平成28年度 収入支出決算書・・・・・・・・	96
平成28年度 役員・・・・・・・・	99
(理事・会計監査委員・ 委員・部会幹事および部会会員数・事務局幹事)	
新潟県高等学校教育研究会規約・・・・・・・・	102
平成28年度事務局日誌抄・・・・・・・・	106
編集後記 幹事・・・・・・・・	107

国語部会

1 運営委員会・代議員会等

(1) 第1回

期 日 平成28年6月22日(水)

会 場 じょいあす新潟会館

内 容 年度事業の検討

参加者 運営委員会 12名

代議員会 16名

議 題

- 1 平成27年度事業報告および決算報告
- 2 平成28年度事業計画および予算案
- 3 平成28年度役員・地区委員選出
- 4 全県研究協議会の実施計画検討
- 5 その他

(1) 実践発表

- ① 「ファシリテーションの
手法を用いた授業改善」
～『国語総合』の授業実践から～
発表者 小千谷高等学校教諭
長谷川 尚子

- ② 「生徒の能動的な
「詩」の解釈の授業実践」
～「未確認飛行物体」
(入沢康夫)を題材に～
発表者 柏崎翔洋中等教育学校教諭
山田 晶子

(2) 第2回

期 日 平成29年1月31日(火)

会 場 じょいあす新潟会館

内 容 年度事業の検討

参加者 運営委員 14名

議 題

- 1 平成28年度事業報告および決算報告
- 2 平成29年度事業計画および予算案
- 3 全県研究協議会の概要
- 4 その他

(2) 講 評

県立教育センター

山本 寛 指導主事

(3) 講 演

『源氏物語』における父性愛」

講 師 新潟大学名誉教授

宮崎 莊平 氏

(4) 研究協議

「思考力・判断力・表現力の育成を
目指した授業改善について」

2 全県研究協議会

期 日 平成28年10月28日(金)

会 場 新発田高等学校

内 容 研究発表・実践発表

講評

講演

研究協議

参加者 73名

指導・助言

県立教育センター

山本 寛 指導主事

3 地区研究会

今年度は、実施していない。

4 刊行物

『国語研究 第63集』刊行

地理歴史・公民部会

1 総会・研究協議会

期 日 平成28年7月1日(金)

会 場 新潟市万代市民会館

○議 事

- (1)平成28年度役員改選
- (2)平成27年度事業報告
- (3)平成27年度決算報告
- (4)平成28年度事業計画
- (5)平成28年度予算
- (6)その他

○実践報告

「主権者教育の取り組み～『私たちが拓く日本の未来』を活用した授業～」

報告者 長岡大手高等学校教諭
丸山 玲奈

○基調講演

「18歳選挙権と主権者教育」

講 師 明治大学文学部特任教授
藤井 剛 様

参加者 43名

2 地理研究会

期 日 平成28年8月8日(月)・9日(火)

会 場 じょいあす新潟会館

○講演(8日)

「これからの地理教育—必修科目「地理総合」をいかに実践するか」

講師 獨協大学経済学部教授
秋本 弘章 様

○巡検(9日)

「新潟市秋葉区の歴史と産業」

新潟会館～新潟駅～石油の里公園～小須戸～総合車両製作所(旧JR東日本新津車両製作所)～新潟駅～新潟会館

参加者 20名

3 歴史研究会

期 日 平成28年9月2日(金)

会 場 新発田高等学校

○公開授業

- ・3年日本史探究

「日本近代の史・資料読解によるリテラシー育成を試みる授業」

- ・2年日本史B

「前近代のグローバリズムを考える授業—日本中世を対象とした授業」

授業者 新発田高等学校教諭 竹田 和夫

○研究協議

○研究会第1部

「学知に基づき学知につなぐアクティブ・ラーニングをどう推進するか」

報告者 新発田高等学校教諭 竹田 和夫
佐渡高等学校教諭 横田 亮

○研究会第2部

「新科目歴史総合(仮称)実施に向けての取り組み」

報告者

高田高等学校教諭 江川 慎也
佐渡中等教育学校教諭 中村 崇志

○講演

「学習指導要領にみる「歴史的思考力」

講師 東北福祉大学教授 下山 忍 様

参加者 37名

4 研究成果の刊行

『地理歴史・公民研究』第55集の刊行

(写真)



(7月1日 研究協議会)



(9月2日 歴史研究会)

数 学 部 会

1 全県研究会

(1) 数学教育研究会

期 日 平成28年6月30日(木)
場 所 柏崎市立図書館(ソフィアセンター)
講 師 新潟大学理学部数学科教授
羽鳥 理 様

講 演

『数学の研究と教育を通して思うこと』

研究発表

『新潟大学入試問題の分析について』

県立新潟江南高等学校教諭 石塚 正宏

参加者 78名

(2) 全県研究協議会

期 日 平成28年10月12日(水)
場 所 新潟中央高等学校 音楽ホール
講 師 ジャズピアニスト、数学者
中島 さち子 様

講 演

『創造の醍醐味：数学と音楽』

研究発表

『「問題づくり」を通じた主体的な活動への
取り組み』

県立長岡高等学校教諭 長谷川 孝

参加者 103名



中島先生の講演

2 地区研究会

(1) 中高連絡協議会

今年度は中学校主催事業として実施

(2) 中越地区研究協議会

期 日 平成28年12月9日(金)
場 所 アトリウム長岡
講 師 産業能率大学経営学部教授
小林 昭文 様

講 演

『「アクティブラーニング(能動的学習)型」
授業の意義・効果・始め方』

研究発表

『生徒の学習内容の理解・定着を目指して
～数学Ⅱ「等式の証明」の授業から～』

県立柏崎常盤高等学校教諭 佐々木 悦子

参加者 91名

3 会議

期 日 平成28年6月30日(木)
場 所 柏崎市立図書館(ソフィアセンター)
議 題 (1)平成27年度事業・決算報告
(2)平成28年度事業・予算案審議
出席者 78名

4 広報・研究成果の刊行

- (1)平成28年度数学部会会員名簿
発行
- (2)「数学教育研究集録」第55号
の刊行

理科部会

1 役員会

【1】第1回役員会

- 1 期 日 平成28年7月7日(木)
- 2 会 場 新潟薬科大学
- 3 参加者 25名
- 4 講演
「応用生命科学部 理科教職コースの成果
と今後の方向性 ～一期生の挑戦～」
新潟薬科大学
教授 寺木 秀一 様
准教授 木村 哲郎 様
- 5 施設見学
- 6 議 題 H27 事業報告 決算報告
H28 事業計画 予算案
役員改選
その他
(理科の授業改善研究委員会他)



講演の様子

2 研究会

【1】物理教育研究会

- 1 期 日 平成28年12月8日(木)
- 2 会 場 柏崎高等学校
- 3 参加者 21名
- 4 研究発表
「生徒の思考と交流を促す学習課題の検討②」
新潟県央工業高等学校 山本 岳
「熱(熱容量・比熱)に関する演示実験」
糸魚川高等学校 高野 大介
「開志国際高校の紹介と理科の取組」
開志国際高等学校 島田 元之
「アクティブ・ラーニングの動向と先進校の取組」
松代高等学校長 長谷川 雅一
「体験型授業の取り組みと実験キットの紹介」
新潟高等学校 小熊 好弘
- 5 講 演
「新潟工科大学の物理教育～アクティブ・ラーニングの試み～」
新潟工科大学 教授 柿沼 藤雄 様
- 6 授業参観 1年(物理基礎)・2年(物理)



研究発表の様子

【2】第2回役員会

- 1 期 日 平成28年2月15日(水)
- 2 会 場 新潟県立自然科学館
- 3 参加者 24名
- 4 展示場見学
- 5 研修会 実演見学
「液体窒素の実験」
山口 勇氣 様
- 6 議 題 H28 事業報告 決算報告
H29 事業計画 予算案
その他
(理科の授業改善研究委員会他)

【2】化学教育研究会

- 1 期 日 平成28年11月21日(月)
- 2 会 場 新潟江南高等学校
- 3 参加者 23名
- 4 研究発表
「実験ノートの活用例」
村上中等教育学校 尾崎 巧
「課題研究と授業実験の連携～生徒が主体的・協働的に問題を解決するための取り組み」
新潟高等学校 北畑 雄一郎

「学ぶ意欲を高め、確かな学力を身につけるための教育内容・方法の充実～多用な学習成果を多面的に評価する方法の確立に向けて～」

新潟江南高等学校 井上 逸世

5 研究協議

「アクティブ・ラーニング導入に向けた取組」

6 講演

「高校生のための化学塾における取組について」
新潟薬科大学 教授 杉原 多公通



講演の様子

【3】生物教育研究会

1 期 日 平成28年11月29日(火)

2 会 場 新潟高等学校

3 参加者 34名

4 研究発表

「高校生物における『学び合い』の実践」

分水高等学校 川内 務

「新潟南高校のSSHについて」

新潟南高等学校 笹川 道博

「ハクセキレイのヘルパー」

吉田高等学校 本間 巖

「DNAバーコーディング」

万代高等学校 相馬 泰

5 研究協議

①「新課程の生物教科書における用語と取り扱い内容の不統一性の問題点について」

②新潟高校の電子黒板の紹介等

6 講演

「真核生物染色体のセントロメア領域のクロマチン構造と機能」

早稲田大学理工学術院

教授 胡桃坂 仁志 様



研究発表「ハクセキレイのヘルパー」

【4】地学教育研究会

1 期 日 平成28年11月17日(木)

2 会 場 第1部 新潟大学

3 参加者 15名

4 講演

「越後平野の生い立ちと越後平野西縁断層の活動」

新潟大学理学部

准教授 久保田 喜裕 様

5 第2部 巡検会(新潟市内野他)

案内 新潟大学理学部

准教授 久保田 喜裕 様



巡検の様子(新潟市)

芸術部会

1 総会・研究協議会

期 日 平成 28 年 6 月 23 日 (木)

12 : 50 ~ 16 : 20

会 場 新潟県立柏崎常盤高等学校

(1) 公開授業・実践発表、研究協議会 及び分科会 (13 : 25 ~ 15 : 00)

<音楽> 公開授業

柏崎常盤高等学校教諭 田邊 美栄子

「イメージを持って味わいながら歌う

『椰子の実』」

<美術> 実践発表

新井高等学校教諭 竹之内 泰子

「絵本制作」

<書道> 実践発表

高田南城高等学校教諭 坂井 真知子

「千字文の全臨をとおして」

(2) 総 会 (15 : 15 ~ 16 : 20)

ア 開会挨拶

芸術部会部長

柏崎常盤高等学校長 南雲 充

イ 当番校長挨拶

芸術部会部長

柏崎常盤高等学校長 南雲 充

ウ 議 事

- ・平成 27 年度事業報告
- ・平成 27 年度決算報告
- ・平成 27 年度特別会計報告
- ・平成 28 年度役員案
- ・平成 28 年度事業計画案
- ・平成 28 年度予算案
- ・平成 28 年度当番校について
- ・部会予算残金の処理方法の変更について
- ・研究局の設置について
- ・その他

エ 分科会報告

オ 連絡

・総会・各科研修会の役割分担のお願い

・特別会計の集金についてお願い

・その他

カ 閉会挨拶

芸術部会副部長

出雲崎高等学校教頭 小堺 さとみ



6 月 23 日 (木) 総会 (於: 柏崎常盤高等学校)



6 月 23 日 (木) 総会 (於: 柏崎常盤高等学校)

2 各科研修会

■音楽科研修会

期 日 平成 28 年 10 月 31 日 (月)

会 場 県立新潟中央高等学校

研究主題 ロシアンメソッドピアノレッスン
見学

日本の伝統音楽の研修成果について

発表者 県立長岡明德高等学校教諭

星野 睦

参加者 17名

研修内容

「ロシアンメソッドピアノレッスン見学」
(モスクワ音楽院
アルチョム・アガジャーノフ 様)

昨年に引き続き、新潟中央高等学校音楽科にお世話になりました。

音楽棟のホールでのロシアンメソッドのピアノ講習会では、モスクワ音楽院教授による50分間の熱い指導を拝見させていただきました。

ドビュッシー作曲「喜びの島」を生徒が演奏する様子からかなり高いレベルの講習が期待されました。

最初のトリルの演奏法で楽譜表記の音を中心に弾くという指示が通訳を介して行われました。その後、この曲のイメージを生徒に問い、ゴーギャンの絵をみるように促します。島の原住民が開放的に描かれている絵画からのインスピレーションを期待したこの指摘は的を射ていました。

中間部5対6の非常に合わせにくいリズムがあり、その曖昧模糊としたリズムのずれが、実際には目に見えぬほどの深さをたたえた海の様子だと説明がされます。その島に住んでいる人々の踊り、そしてラッパによるファンファーレ、最後の歓喜の絶頂を、演奏家のCDの演奏を越えた、楽譜に忠実な解釈を披露し、作曲者の意図をくみ取る作業を明確に提示していました。

「日本の伝統音楽の研修成果について」

(長岡明德高等学校教諭 星野 睦)

【研修会実施要項】

1 目的

音楽を担当する指導主事等に対し、実技を中心とした研修をとおして、我が国の伝統音楽について学習指導要領の趣旨を踏まえた必要

な技能等を習得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言が受講者により行われることを目的とする。

2 主催 文部科学省

3 共催 国立大学法人東京藝術大学

4 期日 平成28年8月3日・4日

5 会場 国立大学法人東京藝術大学
(上野キャンパス)

6 研修内容

(1) 実技研修①～④

(2) 鑑賞研修

各コースの模範演奏の鑑賞を行う。

(3) 演奏発表

実技研修の成果について、演奏発表を行う。

(4) 協議会

研修の振り返りと今後の講師等としての活動に向けた意見交換を行う。

7 参加対象 (受講資格)

- ・都道府県・指定都市教育委員会の指導主事等
- ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の教諭等であって各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定のある者
- ・2日間の研修に参加できる者



東京芸術大学 音楽学部の校門

■美術・工芸科研修会

期日 平成28年8月19日(金)

会場 県立上越総合技術高等学校 美術室

内容 実技講習会「ステンドグラス」

参加者 8名

講師 ガラス工房 ^{ファラジ} falaj 丸山 淳代 様

研修内容

(制作工程)

- ①デザイン・使用するガラスを決める
- ②型紙制作・型紙カット、
厚紙を 60mm×90mmに切り抜き、型を作る
- ③ガラスカット
- ④ルーターを使用してガラスの形を整える
- ⑤コパーホイルを巻く
- ⑥ハンダ付



最初にステンドグラスの歴史と技法の種類について簡単なレクチャーを受け、参考作品を鑑賞した。



今回の講習はステンドグラス技法による「ペン立て」の制作として、様々な色ガラスの中から配色を決め、デザインに合う形にカットするところから、ハンダ付けで立体にするまでの一連の工程を学んだ。

光を透過するガラスという素材の特性と、ペン立てとして立ち上がる側面、底面の配色バランスなどを考えながらデザインを決め、ガラスカッターを使用したガラスのカットや研磨、パーツひとつひとつをコパーホイル（銅製テープ）で巻く作業など、参加者の多くが初めての技法

を体験しながら制作に集中した。

実際に授業で教材として扱う場合は専門用具や材料を揃える必要があるが、講習を通して、色、形、材質の組み合わせにより多様な表現が可能であることを知り、充実した研修会となった。



完成作品

■書道科研修会

期 日 平成 28 年 12 月 13 日（火）

会 場 県立教育センター

内 容

(授業研究発表)

県立荒川高等学校教諭 長津 綾子

(教材研究発表)

県立新潟西高等学校教諭 藤原香代子

(指導・講評及び実習指導)

県立教育センター指導主事 小熊 直子 様

参加者 17 名

◇授業研究発表

荒川高等学校 長津綾子教諭より、「書道 I において、篆刻の授業の工夫を図った実践例～思考力・判断力・表現力などを育成する探求的・発展的学習の充実に向けて～」と題した授業研究発表がされた。多様な特性をもった生徒が在籍する中、UDL や AL など様々な要素を踏まえ、篆刻という分野で何ができるのかを考え、生徒が「楽しむ」ことを重視した授業展開の実践である。

近年、授業における ICT 活用が推進され

る中、タブレット端末を利用した言語活動の実践は大変参考になるものであった。無料アプリを用いて篆刻に関するクイズを作成して出題し、グループごとに端末を使いながら意見交換を行うなど、他の人と題材を共有することで、生徒の関心・意欲がいつそう高まり、その後、違う単元の学習にも積極的に授業に取り組むようになったという成果が報告された。また、鑑賞の授業におけるタブレット活用の効果についても触れ、タブレットに取り込んでおいた作品の必要な箇所を拡大して見せて一斉指導を行うなどの実践例が紹介された。

平成 29 年度版の東京書籍の教科書には、タブレットを教科書の文字にかざすと筆順が浮き上がるシステムが組み込まれているという。教科書も遂にここまで来たという時代である。ICT 活用により今後どのような進化が見られるか、ICT を効果的に活用した授業を展開するにはどのような力量を身に付けるべきか、研修を深める必要がある。また、学校の環境整備も喫緊の課題である。



授業研究発表の様子

◇教材研究発表

新潟西高等学校 藤原香代子教諭より、「書画カメラを使った授業報告」と題した教材研究発表がされた。

そもそも範書には、水書版を使った範書や巡回範書など様々な方法があり、それぞ

れにメリット・デメリットがある。その中で、今回は書画カメラを用いた範書を取り入れた授業展開と教材研究についての報告があった。

書画カメラを使った授業を行うには、書画カメラの他にプロジェクターやスクリーンが必要となる。そして、教室環境によっては遮光の必要性もあり、整備するとなると低額では収まらない。書画カメラが十分に設置されていない背景にはこうした問題点があり、金銭面の課題が最大のデメリットと考えられる。

実際に書画カメラを活用した授業を行ってみると、拡大投影が可能のため生徒が自席に着座したまま一斉範書ができたり、カメラの角度を変えることで教卓範書や巡回範書より筆の動きを詳しく見せられたりと、指導上のメリットがあるという。また、ストップモーション機能も備えられているため、生徒に伝えたい箇所を重点的に指導することができるということである。書画カメラは、どの生徒にも分かりやすい視覚的教材であると同時に、技術の向上に繋がる効果的な教材であると感じた。

前出の長津教諭同様、藤原教諭も平成 29 年度版東京書籍の教科書について触れ、「スマートフォンをかざすと運筆映像が流れる…機械がいろいろなことをやってくれてしまう時代の到来、人間は何ができるか。」と疑問を投げかけ、発表を締めくくった。





書画カメラを用いての教材研究発表

◇指導・講評及び実習指導

冒頭「今なぜ ICT か」という問いかけからはじまり、その有用性と機器の機能や動作を確かめながら、授業に役立てる方策を考えた。

ICT の活用により、情報を焦点化し、生徒の学習への興味・関心を高め、分かりやすい授業を行うことができる。また、主体的・協働的な学びの実現や、特別な支援を要する生徒への手立てとして大いに活用すべきである。さらに、校務の効率化を図ることも、結果として生徒と向き合う時間を作ることに繋がるなどのメリットが紹介された。

とはいえ機器を使うことそのものが目的とならないよう注意したい。ICT を活用し、授業内容の質を向上させることが大切である。機器は総じて高額なものが多いが、安価に入手できるものも近年増加している。あとは授業に必要な数の確保が難しいことなどが悩みの種か。

実習では書画カメラ、電子黒板の操作確認や TV 会議システムアプリ（ハンガアウト）のデモンストレーションを行った。また、iPad の無料アプリ（写真で和風画／xSync Mobile）を使い、各自で事前に用意した書作品と写真を合成し、電子黒板上で共有するなどの活用法を学び、数年前には難しかったことが、今や手軽にできることを実感した。

授業でアプリを使用する際、アカウントの権限やフィルタリング解除の手続きなどについての許可申請が必要であることにも注意しなければならない。

最後に、ICT は便利で有用性が高いが、一方ではトラブルの被害者、加害者になる危険性もはらんだ諸刃の剣という面もある。今後、情報モラル教育の一層の充実が図られ、教育の現場で望ましい形の積極的な活用が求められている。



電子黒板を使っでの実習の様子



iPad を使用しての実習の様子

3 刊行物

平成 28 年度高教研芸術部会報告 90 部

英語部会

〔 1 〕 夏季研究会

期 日 8月16日(火)

場 所 アオーレ長岡

参加者 81名

内 容

(1) 実践発表及びワークショップ

- 1) 高橋有香(県立新潟中央高等学校)
「思考力をアクティブに！主体性を目覚めさせる魅力的な活動づくりとは？」
- 2) 金子暢也(県立新潟西高等学校)
「学習指導要領改訂の方向性と英語教育」
- 3) 高松利治(県立新発田高等学校)
「脱「受験英語」で楽受験英語」
- 4) 石井美乃(県立長岡農業高等学校)
「パフォーマンス・テストの評価」

(2) 授業研究およびワークショップ

講 師 根立 望(県立新発田高等学校)

〔 2 〕 全県英語科研究会

期 日 10月28日(金)

場 所 新潟経営大学

参加者 92名

内 容

(1) 高教研英語部会総会

(2) ディベート指導実践発表および生徒実演

西村 香介(加茂暁星高等学校)

(3) ディベート指導実践発表

長谷川 耕市(新発田商業高校)

河内 一修(燕中等教育学校)

荒木 美恵子(長岡高校)

(4) 研究報告

根立 望(新発田高校)

丸山 智恵子(国際情報高校)

水戸 直和(村上中等教育学校)

(5) 指導講評 高等学校教育課

横堀 真弓(副)指導主事

(6) 講 師 江口 裕之 先生

(CEL 英語ソリューションズ

最高教育責任者)

演 題 「英語で伝えたい日本文化」

〔 3 〕 高校生スピーチコンテスト(県教委と共催) 参加者 77名

(1) 予選(10月8日(土))

会 場

(上・中越) 柏崎エネルギーホール

(下越・佐渡) 県立新潟高校視聴覚室

(2) 本選(11月13日(日))

会 場 クロスパルにいがた

〔 4 〕 高校生ディベート大会(後援)

期 日 10月22日(土) 23日(日)

会 場 新潟国際情報大学

参加校 4校(12チーム)

〔 5 〕 英語授業力向上セミナー

期 日 2月25日(土)

場 所 アオーレ長岡

参加者 94名

(1) 講 師 和泉 伸一 先生

(上智大学外国語学部 教授)

演 題 “From Forest to Trees:

Teaching English in English with Dual

Focus on Language and Content”

(2) 実践発表 百瀬 美帆

(千葉県立長生高等学校)

「チーム英語科で取り組む授業」

(3) 実践発表 木村 純一郎

(北海道札幌国際情報高等学校)

「「教える」から「学ばせる」へ

— 生徒の自律を促す授業のあり方」

〔 6 〕 研究成果の刊行

高教研英語部会誌 第61号の刊行

(内容) 夏季研修会報告

全県英語科研究会報告

その他

農 業 部 会

平成 28 年度 新潟県高等学校
農業教育研究大会
兼第 40 回全国高等学校農場協会
北信越支部大会 報告

当番校 新潟県立新発田農業高等学校
報告 新潟県立高田農業高等学校

目 的

北信越 5 県の農業関係高等学校の教職員が新潟の地に集い、農業教育の当面する諸問題について研究協議し、農業教職員の資質の向上と併せて農業教育の振興発展に資する。

大会スローガン

「地方創生の核となるべき農業教育を推進しよう」

期 日 平成 28 年 8 月 9 日 (火) ～ 10 日 (水)

会 場 万代シルバーホテル

参加者 131 名

日程及び次第

8 月 9 日 (火)

12:30～12:50 受付
13:00～13:50 開会式
14:00～15:40 研究協議 (分科会)
16:10～17:00 全体会 (分科会報告)

8 月 10 日 (水)

8:30～8:40 受付
8:40～9:50 総会
10:00～11:30 講演会
11:40～12:10 指導講評
12:10～12:30 閉会式

研究協議

第一分科会

「郷土愛を軸とした地域農業や地域社会を担う人材育成について」

指導助言 長野県立更級農業高等学校
校長 嘉部 義久
発 表 長野県立南安曇農業高等学校
小池 晃

資料提出 富山県立氷見高等学校
高橋 弘
司 会 新潟県立高田農業高等学校
岡田 雅樹
記 録 新潟県立高田農業高等学校
石井 清尚・小杉 訓広

第二分科会

「グローバルな視点を持った地域産業や地域社会との連携について」

指導助言 石川県立翠星高等学校校長
山崎 恵
発 表 新潟県立高田農業高等学校
廣瀬 久人
資料提出 福井県立若狭東高等学校
中林 春男
司 会 新潟県立加茂農林高等学校
原 正博
記 録 新潟県立加茂農林高等学校
五十嵐正博・大崎 隆

第三分科会

「生徒が夢や希望を持ち、地域社会の課題に取り組む農業教育の実践について」

指導助言 富山県立小矢部園芸高等学校
校長 松田 昇平
発 表 石川県立能登高等学校
大隅 博幸
資料提出 新潟県立巻総合高等学校
渡辺 秀明
司 会 新潟県立長岡農業高等学校
櫻井 修
記 録 新潟県立長岡農業高等学校
鈴木 英明・笹川 泰子

講演会

演題 「循環型社会形成を目指して」
～バイオマスエネルギー農業利用システム～
講師 株式会社 開成
代表取締役 遠山 忠宏 様

講師が事業を始めた経緯と、その中での成功例や失敗談を紹介していただいた。自分の高校生活を顧み、今の生徒には苦しい経験とそれを克服することを学んでほしい、教職員には何事にも挑戦し決してあきらめず、未来の子どもたちのために頑張ってもらいたいという激励を込めた講演であった。

終わりに今年度は北信越支部大会と共同で研究大会を行った。農業教育の当面する諸問題について研究討議し、農業教職員の資質向上と併せて農業教育の振興・発展につながる示唆を得た。また、講演会や研究協議をとおして、地域のために、また未来のために農業教育の役割を果たすべく農業教職員のますますの精進が必要である。

農業教育課題研究会 報告

当番校 新潟県立新発田農業高等学校

1 テーマ

地域社会の課題に取り組む農業教育の実践について

2 目的

先進農業経営の実践報告（講演）と現場見学により、地域社会の課題に取り組む農業教育の実践に資する。

3 期日

平成 28 年 12 月 8 日（木）

4 会場

旧「阿賀野市立大和小学校」（株）脇坂園芸

5 日程

- 13:10～13:25 受付
- 13:30～13:35 開会式
- 13:35～14:05 植物工場見学（旧阿賀野市立大和小学校）
- 14:05～14:20 移動
- 14:20～14:50 農場見学
- 14:55～15:40 講演
(株)脇坂園芸 脇坂 裕一 様
- 15:40～15:50 質疑応答
- 15:50～15:55 指導助言
県立新発田農業高等学校長 大田 英則
- 15:55～16:00 閉会式



6 参加者(13名)

1	校長	大田英則	新発田農業高等学校
2	教頭	村山英司	新発田農業高等学校
3	教諭	遠藤正斗	新発田農業高等学校
4	教諭	風間 卓	村上桜ヶ丘高等学校
5	教諭	二瓶 武	長岡農業高等学校
6	実習助手	石黒秀樹	長岡農業高等学校
7	教諭	松井智之	加茂農林高等学校
8	実習助手	井口正樹	加茂農林高等学校
9	常勤講師	坂田麻利弥	加茂農林高等学校
10	教諭	樋浦俊衛	柏崎総合高等学校
11	教諭	羽二生喜國	高田農業高等学校
12	実習助手	池亀元喜	高田農業高等学校
13	教諭	熊木秀徳	新発田農業高等学校 (事務局)

7 植物工場見学

植物工場は、廃校となった旧大和小学校の給食室を改装したもので、給食室は、他の教室に比べ、機密性や水場等の利点がある。

植物工場は、(株)脇坂園芸だけでなく市内の異業種交流（阿賀野ドリームプロジェクト）に



名を連ねる建築や電気設備、水道工事等の企業や県工業技術総合研究所も参加した合同事業である。植物工場の広さは80平方メートルで、3段の棚を4列設置した。脇坂社長の試算では

100坪のハウスに相当する面積が確保でき、栽培様式は、ロックウールを用いた養液栽培、照明にはLEDライトを使い、パンジー、ベゴニア、ナデシコ、キンギョソウなどを組み合わせて、多品種栽培で周年収穫・出荷を目標に行っている。

8 講演

演題 『視点を変えて、新しい道をつる』

① 講演内容

まず自分が農業を始めた理由は、高校生の頃の草花担当だった教員が発した一言であった。「花は儲かるぞ。3,000万円も夢ではないぞ。」その言葉を聞いてその日の放課後に市内の本屋さんで草花に関する本を購入して勉強した。卒業後は、神奈川県で園芸農家で1年半の研修を行った。当時は、バブル経済である程度の花であれば高値で売れる時代であったので、研修先では、販売先に運送することが大半で栽培技術を習うことは少なかった。その後新潟に戻り、当時流行のシクラメン栽培を始めたがなかなかうまくいかず、借金だけが増えていった。その時に研修先を安易に考えていた自分を後悔した。目的をしっかりと持って研修先を選べば、このような結果になら無かったと思った。様々な草花を育てて最終的にポインセチアを栽培し始めたことが人生の転機につながった。たまたまポインセチアがホームセンターのバイヤーの目にとまり取引が始まり、その後草花苗販売まで行うことになった。しかし、企業の契約は「決まった品種、出荷量、出荷日等」の細かい内容で、ある時に苗の出荷ができなかった事を取引先に伝えたところ、福島県の農家に苗を取りに行くことになった。「農家である自分が他の農家に苗を取りに行く。」このことが凄く屈辱的であり、悔しさを痛感した。これからの農家は出荷・販売に責任が発生すると思った。

その後平成23年3月に東日本大震災が起り、自分にできることをやろうと支援物資を運

ぶボランティア活動しているときに、「自分は農業をしているが、農業の中でも食べられないものを生産している。食料が不足している中で自分が生産しているものが被災者の人たちに届けられないもどかしさに悩まされた。」そこから、食べられる花、エディブルフラワーの発想が生まれた。しかし、一般にはまだ事例が少



なく、明確な栽培基準や栽培方法がない。口に入るものなので安心・安全ではなくてはいけない。そこから無農薬栽培に行き着いた。しかし現実には、虫と病気を育てているもので、いくら注意しても発生は抑えられなかった。この植物工場の構想もそのような思いから行き着いた発想であった。また、良いものが売れる時代でもない。品質が良くても消費者が求めていなければ売れない。今消費者が何を求めているのかを知ることが重要である。それに答えることにより活路が見いだせる。そのためにはネットワーク作りが重要であるし、人脈作りが大切である。自分の応援団をつくるのが重要なので、その一環として、東京ビックサイトのスーパーマーケットへの出店やSNSの活用をしている。また、最近は経営も安定してきて、社員やパートを雇用しているが今までと違って、働く人たちに環境を作ることとそれに見合った賃金を支払う責任を負っている。自分個人だけの問題でなく経営者として働く人たちに対しての責任と毎日格闘している。

今後の夢は、喫茶店を作ることで、過疎化が進む地域の中で何とか人が集まる場所作りに

貢献していきたいと考えている。

② 質疑応答

・Q1 登録農薬の使用についての有無と認証制度の導入について

・A1 食べるものなので、一切農薬は使用していない。また認証制度については、第三者に認めていただかなくても、一切の農薬を使用していないので認証してもらう必要がないと考える。

・Q2 エディブルフラワーは食べる前に洗った方がよいのですか

・A2 農薬を使用していない事と洗うことによる変質の恐れがあるのでそのまま食べてください。

9 農場見学

現在は、マリーゴールド、ペゴニア、ナスタチューム、ナデシコが栽培されており、ナスタチュームはほのかな辛みがあり、ペゴニアはベリー系に似ている酸味ありどちらもおいしかったです。



ナデシコ



ペゴニア



ナスタチューム



マリーゴールド

10 指導助言

新潟県立新発田農業高等学校長 大田 英則

教員は、「大変さよりも夢を持たせる！夢を語る！」生徒たちに夢と希望を与えることが重要である。農業高校であるので、生徒たちを農業の生産者や関連企業への導いていただけよう日々の教育活動に尽力していただきたいと思う。

また、最近農業高校が見直されている。本日の研修でインプットしたことを学校に戻ったら生徒たちにアウトプットをしていただきたいと思う。

農業教育課題研究会 報告

当番校 新潟県立長岡農業高等学校

1 はじめに

今回の課題研究会では、県内において科目「食品製造」担当教員に対して、どら焼き・練り切りを題材として、和菓子製造の講義、実技指導を行った。

2 テーマ

科目「食品製造」における穀類の加工と和菓

子に関する研究について

3 目的

科目「食品製造」における穀類加工の和菓子技術について習得するとともに、食品の衛生管理について学び、授業に応用と理解を深める。

4 日時

平成 28 年 10 月 6 日 (木)

13 時 30 分から 16 時 30 分まで

5 会場

新潟県立長岡農業高等学校 製パン室

6 日程

13:00～13:30 受付

13:30～13:45 開会式



開会式

13:50～15:45 和菓子実技講習

15:50～16:15 休憩・施設見学

16:15～16:30 閉会式

7 参加者

当番校 長岡農業高等学校 校長 伊藤本恵
教頭 木村和史

1	菅谷 耕司	村上桜ヶ丘高校
2	小黒 一宣	新発田農業高校
3	伊藤優紀子	巻総合高校
4	寺尾 誠	加茂農林高校
5	大崎 隆	加茂農林高校
6	諏訪 智子	加茂農林高校
7	久保田あづさ	柏崎総合高校
8	八木 裕之	高田農業高校
9	松嶋 純平	高田農業高校
10	渡辺 良樹	長岡農業高校
11	羽深 良一	長岡農業高校

12	中野 忠雄	長岡農業高校
13	若杉 祥彰	長岡農業高校
14	槇田 善衛	長岡農業高校
15	横田めぐみ	長岡農業高校
16	金子 千陽	長岡農業高校
17	加藤 貴法	長岡農業高校

8 内容

(1) 実技講習

「和菓子について講義および実習」

講師 (有) 司生林堂 神林 浩司 様

①練り切り製造について

②どら焼き製造について

(2) 実技指導

①練り切り製造実習

②どら焼き製造実習



どら焼き



練り切り実習

9 指導講評

和菓子の製造実習は、普段あまり授業で取り上げていない分野だろうと思われる。学校

によって準備できる設備なども異なり、なかなか全県で取り組むのは難しいかもしれない。しかし、今回研修を行い、参加した教員にも新たな発見があっただろう。その新たなものに出会った時の気持ちを忘れず、各校へ戻った際に生徒に伝えて欲しい。また、学校間わず情報交換をすることで授業へ導入できる可能性が広がり、新たな分野へと挑戦することができるのではないか。是非声を掛け合って授業の充実を高めて欲しい。

10 おわりに

本年度の農業教育課題研究会は、県内農業高校で科目「食品製造」を担当している教職員を対象としました。今回は和菓子についての実技講習を行ったが、慣れない作業もあり新鮮な気持ちで取り組むことができました。特にはさみを使った練り切りの細工では、なかなか満足のできる作品を作ることができず、もう何回か挑戦したいといった声も聞こえました。お手本にあこがれ、実習を行い、満足できずもっと向上したいというような生徒のような気持ちを改めて感じることができました。講師の神林様に、このような素晴らしい機会を提供して下さったことに感謝申し上げ、報告とさせていただきます。



工業部会

「機械・電子機械系」見学会・研究会

期 日 平成28年10月6日(木)
会 場 株式会社リケン柏崎事業所(見学会)
柏崎工業高等学校(研究会)

参加者 25名

【見学会】

見学先の株式会社リケン柏崎事業所は自動車・産業機械部品を製造しているメーカーである。自動車部品ではピストンリング、シールリング、バルブリフター、カムシャフト、バルブシートを製造している。ピストンリングに関しては国内シェア約50%、世界シェア約20%を誇っている。国内にある全ての自動車メーカーおよび世界の多くの有名メーカーとも取引がある。会社の概要説明の後、工場内を見せていただき、ピストンリングの製造工程やエンジン



見学会の様子

性能試験、キュボラによる鋳造品製作を実際に見学することができた。緻密で正確な生産工程と、ダイナミックな鋳造作業はどちらも高い技術の裏付けがあって可能となるものであり、間近に見ることができ大変感動した。

見学後の質疑応答では、製造工程や人材育成、海外展開についてなど多岐にわたる質問が多く、先生方からなされ大変有意義な見学会となった。

【研究会】

講師に株式会社酒井鉄工所の渡邊祐一様をお招きし「最新の技術による技能の低下」とい

う演題で講演をいただいた。

渡邊様が働く酒井鉄工所では分業制はとらず、工程設計→プログラミング→オペレーティング→検査まで1人で全て責任を持ってものづくりをする自己完結型の製造方法をとっている。ものをつくる工程の全てができてのものづくりであり技術・技能の向上がなされていく。



機械加工の基本は手作業であり、運動感覚系の技能の継承が大切である。最先端の技術以上に基盤となる技術が大切であり、工業高校では機械要素や勘合のガタを実際に見せるなどしてほしいと話があった。

講演の様子

研究発表では、柏崎工業高等学校より「学校用具の修理・製作」「動物型ロボットの製作」について2件の発表があった。

塩沢商工高等学校の松本智先生からは「授業における地域連携」というテーマで発表いただいた。塩沢商工高等学校は地域の要望により建築土木系の選択授業を導入することとなる。現在機械システム科の生徒を対象として2年生から建築土木系の科目を選択履修できる。建築業協会や地元企業へ協力を求めたり、実習環境を整えたりと様々な取り組みをされた。土木が選択できることで塩沢商工に入学した生徒もいて実績も出てきている。

(記・新潟県立柏崎工業高等学校
電子機械科 島倉 康幸)



講演の様子

「電気・電子系」研究会・見学会

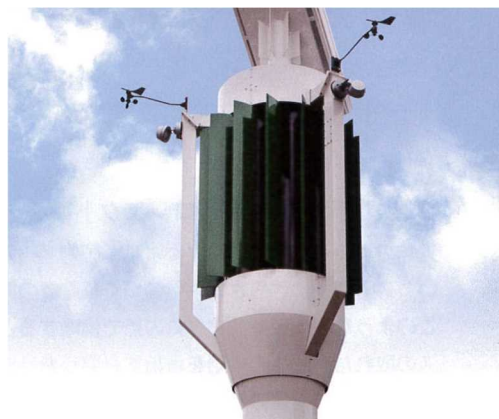
【見学会】

期 日 平成28年7月1日（金）

会 場 燕三条地場産センター・シマト工業㈱

参加者 12名

今回見学させていただいた施設は、三条市が「次世代産業創造プロジェクト事業」の一つとして、市内の事業所を中心に構成された事業実施主体「Ecubic」が作成した風力発電装置です。次世代産業創造プロジェクト事業とは特定の産業に依存しがちで、不況の影響を受けやすいといった三条市の産業構造を脱し、バランスの取れた産業へ転換することをめざすために過度な下請け体制を脱し、商品開発の構想段階より前の段階における取引先への提案が行える提案力と開発力を目標としています。その特徴として三条市の産業界が有している高いレベルの金属加工技術が活き、期待感も高まっている新エネルギー分野の一つである風力発電と水力発電に着目し、風力発電装置が開発されました。



クロスフロー型発電機

最初に、シマト工業㈱総務部部長の虎谷栄一郎様より、道の駅・燕三条地場産センター駐車場の敷地内に設置されたクロスフロー型発電機の説明をしていただきました。従来の風力発電装置と差別化を図るために「弱い風での発電」を目指すとともに、強風時の安全面も考慮した構造・設計を重視したそうです。また小型風力発電の場合、大きな発電が期待できないため効率的な発電性に加えて斬新なデザインで広告塔としての宣伝効果などの付加価値も追求したそうです。今回は見学できませんでしたが、すでに三条市下田地区内で稼働している水力発電分野も含めた多用途展開できるシステムの構築を目指しているそうです。



電磁鋼板に配置したコイル

次に、シマト工業㈱に会場を移しインナーローター型発電体の設計・製作を担ったシマト工業㈱生産技術課の片桐春彦様より「風力発電用発電機の開発と小水力発電への転用」についてご講演いただきました。シマト工業㈱は金型から板金加工、溶接、塗装、組立までの全工程を

一貫して製造できるシステムを確立している事業所です。その利点を活かし風車の製作のみならずコイル巻を始め、発電機自体からも製作を行ったそうです。これらの多品種少量生産に対応するFMSの現場施設の見学もさせていただきました。

【研究会】

期 日 平成28年7月1日(金)
会 場 県立新潟県央工業高等学校
参加者 12名

午後からの研究会は「エコ発電装置」について、エフテック(株)代表取締役の渡邊諭様と技術部の橋本真樹様よりご講演をしていただきました。エフテック(株)は午前中に見学させていただいた風力発電装置の開発・製作を担った事業実施主体「Ecubic」を構成する一社です。

太陽光発電・風力発電・水力発電などの異なった種類の発電機を組み合わせたハイブリッド発電装置において、特性の異なる発電機を複合利用することで偏った発電特性を平均化できるメリットがあります。それらを効率よく電気的にコントロールする技術が必要になります。このハイブリッドコントローラにおいて日本国内はもとより海外などでも多数の導入実績をもち、そこから得られたデータなどを元に問題点と今後の技術展望についてお話をうかがいました。また、データを見ただけではイメージしにくいハイブリッドコントローラの概略についても実験装置を使いながら説明していただきとても有意義な研究会となりました。



研究会の様子

(記・新潟県央工業高等学校
情報電子科 本宮 信之)

「工業化学系」研究会・見学会

【研究会】

期 日 平成28年8月1日(月) 2日(火)
会 場 8/1 柏崎市文化会館アルフォーレ
8/2 ホテルサンシャイン

参加者 県内参加者20名(全体30名)
第49回北信越工業化学教育研究大会を以て研究会とし、詳細は以下の通りです。

日 程

1日目(8/1(月))

開会式

講演 「高分子化学の基礎 ～身近な材料から先端材料まで～」
新潟工科大学教授 藤木一浩 様

研究発表 「技能検定の取り組みについて」
長野県長野工業高等学校
工業化学科 生田憲克 様

指導講評 新潟県教育庁高等学校教育課
指導第2係 藤澤 満 様
教育懇談会

2日目(8/2(火))

研究協議

- ① 新教育課程への対応について
- ② 高校生ものづくりコンテストについて
- ③ 中学生の応募状況について
- ④ 地域貢献・地域交流について
- ⑤ 学力スタンダードの進捗状況
- ⑥ 情報交換

指導講評

総会

閉会式



研究会の様子

【見学会】

期 日 平成28年10月7日（金）
 会 場 株式会社ニューワタナベ長岡工場
 参加者 12名

見学先のニューワタナベは、平成18年に創業100周年を迎え、新潟県内各地に工場を持ち、ワタナベグループとして県外にも工場、営業所を展開している。県下最大数の取次店舗より持ち込まれる年間約84万点の衣類を素材や汚れの種類に応じて洗浄を行っている。

最初に会社の概要をお聞きし、コップを使った実験によって洗浄の原理の説明を受けた。クリーニングの工程に従って工場内を見学し、作業の様子と機器について説明を受けた。

洗浄では水によるウェットクリーニングとテトラクロロエチレンなどの有機溶剤によるドライクリーニングに分けられ、ドライクリーニング機では有機溶剤を循環して作業環境に配慮している。また、ピースカウンター小型端末機が作業現場に配置されており、衣類のタグを読み取ることによって生産点数及び目標達成率がリアルタイムで表示されている。さらに、タグにより各店舗への仕分けが自動化されていて、興味深かった。

質疑応答では洗濯表示の変更や、新しいテキストスタイルへの対応などが話題になった。

今回の見学会によって、身近なクリーニングがさまざまな工業各分野と関連していることを知ることができ、貴重な体験になった。

見学会でご対応いただいたニューワタナベ

の皆様にご挨拶申し上げます。



見学会の様子

(記・新潟県立長岡工業高等学校
 物質工学科 鶴巻 勝弘)

「建築・土木系」研究会・見学会

【研究会】

期 日 平成28年10月6日（木）
 会 場 新潟県立工業高等学校 会議室
 参加者 20名

(1) 講演会1

「気象条件からの安全対策」

講師 新潟地方気象台広域防災管理官
 栗田 智己 様

近年、防災への関心が高まり、県内でも工業高校を中心に防災に関する教育が行われている。その内容は主に災害が発生してからの内容が割合を占めているが、この講演では災害が起きる前の安全対策の向上に必要な知識について説明を受けた。

普段とは違った視点から防災について知識を深めることができ、気象庁からの情報を瞬時に取得できるナウキャストなどの利用方法を説明して頂いた。



講演会 1

(2) 講演会 2

「多発する自然災害～ハード・ソフト両面から考える防災学習」

講 師 NPO法人にいがたボランティアネットワーク

理事・事務局長 李 仁鉄 様

期 日 平成28年10月7日(金)

会 場 三条防災ステーション 学習館

参加者 21名

2日目の講演会では全国各地で地域の方々やボランティア・コーディネーターの方を対象に防災教育・講演会などを行っている李仁鉄様よりご講演を頂いた。

防災災害対策に関しては、近年、大型台風の発生や地震、火山噴火などの自然災害が多発している。

これらの自然災害そのものを防ぐことはできないが、今まで発生した災害について学び、そのことを生かし、助け合いの精神とともに将来に繋げていかなければならない。

災害で最も難しいのが予測することができないことである。そのため、日頃からの災害ボランティアシステムや共同体としての相互扶助関係の構築が急務である。

今回の講演では多くの被災地を訪れ、ボランティア活動を通して被災地の現状や問題点を把握、分析を行ってきた経験や体験を元に相互扶助関係の重要性や熊本地震についての現状や問題点、今後の防災教育について、震災後の支援などのソフト面だけでなく防災教育素材の紹介などのハード面から話を頂いた。

災害の発生時ではその場で居合わせた人たちで助け合う大切さ、災害発生時の中学生への期待など、外からの支援ではなく、地域の密な連携が重要となる。そのため仮設住宅の入居時にもコミュニティーの崩壊、地域力の弱体化に注意し、入居方法の検討も必要となる。防災への意識向上も重要な点であり、三条市でも行われている防災キャンプなどで多くの方々に安全対策を伝えることも重要となる。このように自然災害への対応は時間の経過や地域性にともない変化し、事前の安全対策の実施することがポイントになる説明を受けた。

この講演で教職員の知識が深まり、教育者として、支援の担い手を作り、高め、増やすことへの手段を知ることができた。また、質問や意見交換を通じて有意義な研修を行う事が出来た。



講演会 2

【見学会】

期 日 平成28年10月7日(金)

会 場 三条防災ステーション 資料館

J Aにいがた南蒲 南低温倉庫

参加者 21名

(1) 防災関係見学会

2度の水害を経験した三条市はその教訓として五十嵐川沿いに三条防災ステーション(三条市水防学習館)を建設した。

主な目的として、多くの方に水害の疑似体験等を通して市民の防災意識の向上を図り、また、地域間情報交流促進のための観光情報を発信している。

施設案内には講演をして頂いた李仁鉄様より行ってもらい、7.13水害時に実際に利用

した消防本部の作戦地図などについて説明をして頂いた。説明の中には河川の氾濫の様子や避難警報の発信が遅れたことなどその時の現状を理解することが出来た。

今回この防災ステーションを土木建築科職員で見学出来たことで三条市の防災活動の取組の現状、防災教育の重要性を学ぶことが出来た。



三条防災ステーション外観



三条市の水害について概要の説明を受けている様子

(2) 建設現場見学会

小柳・涌井建設・平成JVで行われている、S造平屋、建築面積6,686.65m²、の低温倉庫建設工事についての概要や説明を受け見学を行った。この倉庫は米の販売、流通の拠点であり、収容能力は、12万俵(7,200t)が可能となっている。

特長として、米を一定条件で管理するため、温度を10℃～15℃、湿度を60%～80%に保ち、おいしい米を長く保存できる。この条件での保存を可能とするため、床の舗装や内壁の断熱パネルに工夫がされていた。

普段、見る事ができない倉庫ということや米倉庫が4箇所あり、施工前と施工後の区画が

混在していることで施工過程を見比べることができた。また、断熱パネルの施工やアスファルト舗装の施工作业を実際に見ることができて、とても有意義であった。



現場にて施行の様子を見学している様子

(記・新潟県立新潟県央工業高等学校

建設工学科 高村 俊洋

帆刈 駿佑)

「平成28年度ロボット技術研究協議会 及び研究発表会」

期 日 平成29年1月24日(火)

会 場 新潟工科大学

参加者 145名

(生徒120名, 教員25名)

今年で11回目となり、昨年に続き新潟工科大学を会場として、発表会、協議会、講演会、大学設備見学を行いました。講演会では、新潟工科大学工学部工学科 中嶋新一 教授から、「制御とは何か」という演題で講演をしていただき、具体的な事例を上げフィードバック制御の重要性について話して頂きました。

生徒研究発表会では、アイデアロボット部門から新潟工業高校、ダンスロボット部門から柏崎工業高校がプレゼンテーションを行い、競技内容、マシンの特徴や全国大会の状況などを説明しました。

分科会では生徒、教員合同で、技術力と競技力強化に向け研究討論を行いました。各校より、今年競技会に出場したロボットを持ち寄り、熱心に説明や討議を行っている姿が印象に残りました。

参加者は昨年とほぼ同じ人数となり、広い大

講義室が埋まりました。最後は5班に分かれて、大学の最先端設備を見学しました。

開催時期について、この時期に行う理由としてMCRの全国大会を待つことと、新潟工科大学様の都合も考えて、この時期になっています。しかし弊害もあり、雪による交通障害、3年生の期末テストと重なり参加できない生徒が出ています。このようなことを総合的に考えると、もう1週程度早い時期の開催がベストだと思います。



ロボット研究協議会 全体会



生徒研究発表

(記・新潟県立長岡工業高等学校

機械工学科 菊川 茂)

商業部会

「総合分野」研究会

- 1 期 日 平成28年10月20日(木)
- 2 会 場 新潟県立新発田商業高等学校
菊水酒造株式会社
- 3 主 催 新潟県高等学校教育研究会
- 4 参加校 8校 15名
- 5 日 程
受 付 9:50~10:00
開 会 10:00~10:10
施設見学・講演 10:30~12:30
授 業 見 学 13:35~15:25
研 究 協 議 15:35~16:05
閉 会 16:05~16:30

6 施設見学 「菊水日本酒文化研究所」
良いモノづくりを基盤としながら面白いコト作りを追求すること、そして「モノ」と「コト」の融合で日本酒を面白くすることをテーマに設立され、ユニークな設計施工となっていた。地上部分は1階のみ、あとはすべて地下になっており、建築部材については健康を害するもの、環境を侵すものは使用せず、生産履歴の明確なものを使用していた。

また、研究所の5つの機能として、研究・開発機能、製造機能、人材育成機能、情報発信機能、交流機能をもち、特に人材育成機能では節五郎



蔵（創業者高沢節五郎の名をつけた蔵）では自動制御機器を排し、昔ながらの酒造りの道具を用いて酒を醸せる人材を育てることを目標として、古の技の体得と新しい技への挑戦を行っている。

- (2) 講演
演題 『若者を日本酒で感動させたいプロジェクト』
講師 菊水酒造株式会社
生産部製造アシスタントマネージャー
伊藤 淳 様
営業部マーケティング室長
長谷川 洋平 様



商品「J23 KIKUSUI」は、30歳前後の次の世代のお客様をターゲットとし、最高スペック（原料・技術・製法）を投入して、味・香りの感動を実現するお酒を造ること。日本酒との最初の出会いが日本酒の印象を決めるため、お酒（モノ）を楽しむ場所、料理、音楽（コト）の含めた新たな販売方法を採用した。それがクラウドファンディングである。「MAKUAKE」（プロジェットのWebサイト）を利用し、¥4,516,200を集め、サポーターは658人となった。「J23 KIKUSUI」は精米歩合23%（77%も米を削っている）の最高品質の日本酒である。限界まで米を削っているため発酵力が少なく、お酒になるのかという心配もあったが、味は香りが高く、フルーツのような感じとなった。味には好みがあるがインパクトのあるものにしたという意向が強かった。また、ボトルデザインは公募し、造り手への共感、デザインへの感動を得られるように工夫した。

(3) 授業見学

科目 「総合実践」情報処理科3年 38名

内容 楽天IT学校

講師 楽天株式会社 角田 藍美 様

「楽天IT学校」はネット・ショッピングモール「楽天市場」の店舗運営ノウハウを学生向けにアレンジした新しいスタイルの授業である。

高校生にインターネットの可能性・ビジネスチャンスの広がりを理解させるため、「楽天市場店舗・楽天トラベル施設」×「学校」×「楽天」の3者連携により実施する、電子商取引の取組みである。一年間に及ぶネット販売に関する授業を通して、高校生にインターネットの可能性やビジネスの楽しさ・厳しさを伝えることで、高校生のアントレプレナーシップ育成による雇用創出、地域創世への寄与を目指している。

今回のテーマは「販売ページを画像で完成させる」というものであり、1クラス38名を7班に分け、班ごとにプレゼンを行った。各チームの改善したページ案を発表し合い、店舗様(アウトドアの九蔵)の体験からページの改善点を見つけ、売れるページに仕上げるのがポイントであった。



(4) 研究協議

①「総合実践での各校の取組みについて、同時同業の取引はどの学校でもやっていると思うが、それ以外で取り組んでいることはあるか。また、体験的学習や学校外との繋がりなどはあ

るか。」

- ・同時同業と電子商取引 (新潟商業)
- ・総合ビジネス科は同時同業と電子商取引、情報ビジネス科は流通総合(選択科目)でCATをやっている (長岡商業)
- ・同時同業のみ (三条商業)
- ・商業科は同時同業と電子商取引、情報処理科は楽天IT学校 (新発田商業)

② 課題研究の講座はいくつあるか

- ・ビジネス英語、ハングル語、中国語、時事研究、ケーススタディ、ビジネスマナー、ビジネス会計、公共サービス、経営情報科学の9講座 (新潟商業)
- ・商業科目の履修を条件として、資格取得と調査研究の講座がある。資格取得は前期1つ、後期1つ資格を取得することを目標とし、調査研究は各自でテーマを決め1年をかけて調査し、最後に発表する。 (柏崎総合)
- ・キャリアコース選択者のうち情報処理を履修していることを条件とし、職業資格取得講座を選択できる。 (久比岐高校)
- ・検定対策講座 (村上桜ヶ丘)
- ・テーマごとに分けることはせず、クラス単位で各々の課題に取り組ませている。担当者は1クラス2名で、夏休みに3,000字をまとめ、最後には6,000字の論文を書かせ発表させる。 (長岡商業)
- ・日商簿記、会計、原価計算、情報処理、秘書、販売士、小論文の7講座で行い、6月の検定で合格した生徒は講座の変更を認めている (三条商業)
- ・上級簿記、上級情報(ITパスポート)、上級電卓、コンピュータ活用(エクセルとVB)、商品開発、小論文、ビジネスマナーの7つ (新発田商業)

水産部会

水産教育研究会

1 期 日

平成 28 年 12 月 1 日 (木)

2 会 場

新潟県立海洋高等学校

3 指導・助言者

新潟県立加茂農林高等学校

校長 竹内 公英 様

4 日 程

受付	13:00~13:20
開会式	13:20~13:30
講演	13:30~15:00
実践発表	15:10~15:40
閉会式	15:40~16:00

5 講 演

演題

「新・ご当地グルメで漁業と地域を活性化！
～ヒロ中田流「食」プロデュース術～」

講師

株式会社リクルートライフスタイル
地域創造部 じゃらんリサーチセンター
エグゼクティブプロデューサー
中田 博人 様

少子高齢化、人口減少が進む昨今、地方では生産・消費が減少することで経済が低迷していく。その状況において、観光によって交流人口を増加させ、外貨を獲得することは地方経済を活性化するために必要な取り組みである。本講演では「ご当地グルメ」による観光の町おこしのプロデューサーである中田氏にご当地グルメによる町おこしの成功例とご当地グルメプロデュースのツボについてご講演いただいた。

町おこしの舞台となった深浦町は交通の

便が良いとは言えない立地で、観光資源としては「青池」や「不老ふ死温泉」などがあるが、経済効果は小さかった。そこで、深浦町では青森県内で水揚げ量 1 位を誇るクロマグロを使ったご当地グルメによる町おこしを中田氏のプロデュースのもとで行った。結果は、2 年間で 4 万食を売り上げ、2 億 2,000 万円の経済効果があった。成功のカギは、ご当地グルメの内容もさることながら、提供店舗・漁協・事務局のチームワークが形成された点であった。

ご当地グルメをプロデュースするツボについては、消費者目線の発想をして作り手のエゴを押し付けないことと、企画は一言で完結することであった。また、ご当地グルメの料理アイディアは「型」を決めると作りやすく、その「型」とは「代用」「強調」「多種類」「足し算」「逆転」「脱常識」「分解」であった。

本校は現在、地元の水産資源を活かした様々な連携事業に取り組んでいる。本講演は、水産物の活用を考えていく上で大変有意義なものとなった。



平成 28 年 12 月 1 日 13:30～
会場：新潟県立海洋高等学校
講師：中田 博人 氏

6 実践発表

「科目「マリンスポーツ」の授業内容の充実に向けて～SUPボードの導入～」

新潟県立海洋高等学校
矢口 沙保里

海面利用の期間が限られる本校の環境的特長に対応するため、標記の科目でのSUPボードの導入について検討した。

SUPボードとは海に浮かべたボードの上に立ち、パドルを漕ぐことによって移動するマリンスポーツである。

授業ではほとんどの生徒が短時間でSUPボードが扱えるようになり、水難救助の学習にも活用することができた。さらに、ウェットスーツの着用やプールを利用することで、5～11月に活動することができることから、当初の課題も解決できることが明らかになった。

今後の課題としては、効率良く授業を行うためにSUPボードの個別数確保、教員向けSUPボード研修を継続して行うことによる指導体制の充実、マリンスポーツで学んだことを2、3年生で発揮する場を設けることなどが考えられた。

「多様な学習成果を多面的に評価する方法の確立に向けて」

新潟県立海洋高等学校
金子 義昂

生徒募集活動の充実や積極的な情報発信などが功を奏し、目的意識がある入学生の割合が増加した。それに伴い、ほとんどの生徒が落ち着いた態度で授業に参加できるようになったため、「関心・意欲・態度」を評価する判断基準を見直す必要があると考えられた。また、対象学級に対してアンケートを行い、「授業で学んだ内容で『さらに知りたい(学びたい)』と思った頻度」について「全くない」を1、「毎回ある」を5とした場合、回答の平均値は3.2となった。つまり、生徒に

主体的に学びを深めたいニーズがあると考えられた。

そこで、①ワークシートを活用して予習・振り返りを行うことで主体性を持って授業を受けることができ、②授業で生じた疑問点や興味をもったことをテーマにした探究学習を行うことで、主体的に学びを深められることを指導の目標とした。

授業での実践の結果、ワークシートを活用した予習・振り返りは、「目的意識」や「学習内容への興味」、「自ら学んでいる実感」を生徒にもたせることができたと考えられた。また、振り返りで授業の理解度が確認できるため、きめ細かい教科指導をするための材料にもなったと考えられた。授業で生じた疑問点や興味をもったことをテーマにした探究学習では、主体性を持って学習する態度の育成や学習内容の深化につながったと考えられた。

今後の課題として、ワークシートを活用した予習・振り返りを継続して実践することで効果の検証を行うこと、授業で必ず予習が必要となる仕掛けづくりが必要と考えられた。

家庭科部会

1 全県講習会

期 日 平成 28 年 8 月 19 日

会 場 アトリウム長岡

参加者 31名

(1) 開会

①部長挨拶

新潟県高等学校教育研究会家庭科部会部長

新潟県立長岡大手高等学校長

吉原 満

②来賓挨拶

新潟県教育庁高等学校教育課指導主事

射場 政人 様

(2) 講演・演習

「くらしとリスク管理」

① 生活設計とリスクへの備え

～学校向け教材を使用した

生命保険授業勉強会～

講師 公益財団法人 生命保険文化センター

生活情報室 主任 高須 周作 様
たかす しゅうさく

[内容]

高校出前講座「生活設計とリスクへの備え」について説明していただいた。講座では、高校生にも起こりうる事例から、生徒が生活の中のリスクに気づき、自分らしい生き方のためにリスクへの備えが必要であることを考えさせる展開となっていた。また、公的保障と私的保障の役割やしくみ、貯蓄と保険の違いについて詳しい解説があり、クイズや実習を交え、高校生にも理解しやすい内容であった。

②「身の回りのリスクに備える方法を学ぼう」

講師 一般社団法人 日本損害保険協会

北関東支部 担当課長 松代 貴志 様
まつしろ たかし

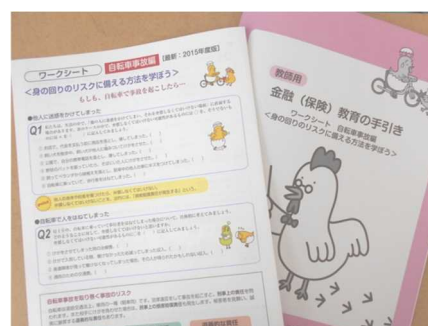
[内容]

高校生向け金融(保険)教育副教材「身の回りのリスクに備える方法を学ぼう(自転車事故編)」を使用した指導展開を解説していただいた。

予想外のリスクは誰にでも起きる可能性があり、交通事故、火災、けが、病気などへの備えが必要であることを、自転車事故の高額な補償等の設問を解きながら学んだ。経済的な損害から自分自身を守るために、有効な手段である損害保険についての理解を深める内容であった。



「くらしとリスク管理」講演の様子



副教材

(3) 講演・演習

「高校生の未来を輝かせるために

～食支援を考える～」

講師 新潟医療福祉大学健康栄養学科

学科長・教授 斎藤 トシ子 様
さいとう

[内容]

県の高校生の調査から、食生活が健康や生活、将来の展望にも影響を及ぼしている状況がみられた。

「はなちゃんのみそ汁」や各地の「弁当の日」の取り組みでは、子ども達が自尊感情を持ち成長していく様子が紹介された。生徒の輝きある未来のために、食育の果たす役割は大きく、「当たり前前の方が当たり前前ができる」ような食教育を、学校全体で継続して行うことが望ましい。実習では、高校生の食教育において、どのような行動を定着させたいかを「マンダラ」思考法を用いて検討し、グループごとに発表を行い、有意義な情報交換となった。



「高校生の未来を輝かせるために」

講演の様子

(4) 閉会

①指導・講評

新潟県立教育センター指導主事

櫻井 直子 様

②閉会挨拶

新潟県高等学校教育研究会家庭科部会副部長

新潟県立長岡商業高等学校長

島峯 勉

2 家庭科部会委員会

期 日 平成 28 年 12 月 1 日 (木)

会 場 新潟県立長岡大手高等学校
済美会館

出席者 新潟県教育庁高等学校教育課
指導主事 射場 政人 様
新潟県立教育センター
指導主事 櫻井 直子 様

新潟県高等学校教育研究会家庭科部会部長

新潟県立長岡大手高等学校長

吉原 満

新潟県高等学校教育研究会家庭科部会副部長

新潟県立長岡商業高等学校長

島峯 勉

新潟県高等学校教育研究会家庭科部会副部長

新潟県立柏崎常盤高等学校長

南雲 充

新潟県立新潟中央高等学校教頭

丸山 綾子

各校家庭科部会代表

53 名

(1) 開会

①部長挨拶

新潟県立長岡大手高等学校長

吉原 満

②来賓挨拶

新潟県教育庁高等学校教育課

指導主事 射場 政人 様

(2) 報告

平成 28 年度事業報告・中間会計報告

平成 29 年度事業計画・予算案

全国産業教育フェア石川大会視察報告

(3) 講習会

「保育技術検定の指導について

～造形表現技術～」

講師 村上桜ヶ丘高等学校

教諭 小田 真由美

[内容]

保育技術検定造形表現技術の 4 級から 1 級について、それぞれ指導方法や留意点の説明をしていただいた。

参考教材の紹介や筆記試験対策について、また、保育技術検定を応用した地域の子どもたちとの交流の様子の紹介もあった。

参加者はグループに分かれ、保育技術検定

の効果的な指導方法についての情報交換や評価について活発な意見交換を行った。家庭科技術検定一元化へ向け、公正な技術検定を行うための確認ができた。



「保育技術検定造形表現技術」講習会の様子



検定作品見本

(4) 指導講評

新潟県立教育センター

指導主事 櫻井 直子 様

保育技術検定の造形表現技術についてわかりやすく具体例を示し、指導方法や道具、教材等も紹介をしていただいた。特に造形表現技術の評価の目合わせは難

しいが、ポイントを押さえ評価についての共通認識を持つことができた。公正な検定の評価のためにこのような研修は大切であると実感した。

近年の各調査によって日本の子どもたちは自己肯定感が低いといわれている。保育技術検定で学んだことを保育実習や地域のボランティア等で活かすことで学ぶことの意味と重要性を実感できる。保育は人と人との繋がりが大きく、相手から認められる喜びがモチベーションとなり自己肯定が高まるのではないかと考える。それが持続学習力に繋がりさらなる自己肯定感を高めるプラスのスパイラルになるのではないかと考える。

来年度も家庭科教育の充実と発展に向けて研修により一層磨きをかけていくことをお願いしたい。

3 研究成果の刊行

「家庭科研究 52 号」 発刊

新潟県高等学校教育研究会家庭科部会、県教育委員会による研修授業、高等学校長協会家庭部会、技術検定関連実践報告等を集録。

保健体育部会

1 保健体育部会全県研究会

期 日 平成28年11月30日(水)
会 場 黒埼地区総合体育館
参加者 56名

【ダンス実技】

東海大学体育学部教授 中村 なおみ 様
ダンス実技テーマ
「初心者も男性教諭も指導できるダンス授業」



〈11月30日 黒埼地区総合体育館にて〉

【講話】

新潟県教育庁保健体育課学校体育指導係
指導主事 志田 哲也 様
講演テーマ 「授業改善の視点」



〈11月30日 授業改善の視点〉

2 全県養護教諭研修会

期 日 平成28年10月4日(火)
会 場 じょいあす新潟会館
参加者 79名

【講演会】

女子栄養大学栄養学部准教授
大沼 久美子 様
研究会テーマ
養護教諭の行う健康相談における省察の効果
「養護教諭の行う健康相談・健康相談活動」

【研究発表】

県養研高等学校部研究推進委員長
井浦 貴子
研究発表テーマ
養護教諭の行う健康相談における省察の効果
～プロセスレコードの分析を通して～

3 刊行物

昨年度より、保健体育部会HPに掲載

生徒指導部会

1 全県委員会

第1回全県委員会

期 日 平成28年7月1日(金)
会 場 県立巻高等学校 会議室
参加者 部長・副部長・全県委員・事務局
協 議 平成27年度事業報告及び決算報告
平成28年度事業計画及び予算審議
地区幹事校選出
全県研究協議会の持ち方について
その他

第2回全県委員会

期 日 平成28年9月9日(金)
会 場 県立巻高等学校 会議室
参加者 部長・副部長・全県委員・事務局
協 議 上中越地区研究協議会及び全県研
究協議会の持ち方について

第3回全県委員会

期 日 平成29年1月24日(火)
会 場 県立巻高等学校 会議室
参加者 部長・副部長・全県委員・事務局
協 議 平成28年度事業報告及び決算報告
平成29年度事業計画
平成28年度部会誌編集状況報告
平成29年度各地区幹事校の選出
その他

2 全県研究協議会

期 日 平成28年11月10日(木)
会 場 巻地区公民館
参加者 57名
講 演 「障害者差別解消法施行にともなう
合理的な配慮の実践について」
新潟県立教育センター
指導主事 中村 悟利 様

研究協議(3つの協議題別に実施)

「特別支援について」
「保護者との連携について」
「交通安全指導について」

全体会 研究協議の報告

指導・助言

県高等学校教育課 青少年相談支援班

主査 田中 茂雄 様



平成28年11月10日(木)

巻地区公民館

全県研究協議会 講演会の様子

講師 新潟県立教育センター

指導主事 中村 悟利 様

3 上中越地区研究協議会

期 日 平成28年10月26日(水)

会 場 上越市市民プラザ

参加者 36名

講 演 「更生保護の現状と課題」

新潟保護観察所 統括保護観察官

堀田 輝 様

指導・助言

新潟県立教育センター

指導主事

吉原 寛 様

実践発表

「生徒指導の取り組み全般について」

上越高等学校教諭 須田 明美

「糸高の生徒指導」

県立 糸魚川高等学校教諭 和泉 克彦

4 刊行物

生徒指導部会誌第49号

図書館部会

1 総会・講演会

i) 総会・講演会

期 日 平成 28 年 8 月 24 日 (水)

会 場 県立生涯学習推進センター

参加者 19 名

内 容

【講演】

「魅力ある図書館員の存在が魅せる図書館」

図書館コミュニケーションデザイナー

押樋 良樹 様

ii) 講演会

期 日 平成 29 年 2 月 15 日 (水)

会 場 県立生涯学習推進センター

参加者 15 名

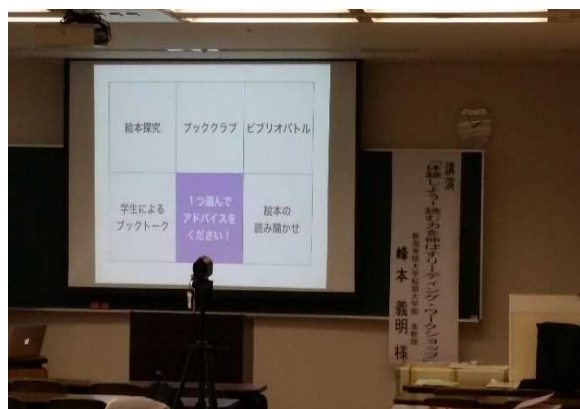
内 容

【講演】

「体験しよう！読む力を伸ばすリーディング・
ワークショップ」

新潟青陵大学短期大学部准教授

峰本 義明 様



それぞれの講演については、『図書館部報』を
ご覧ください。

2 刊行物

『 図書館部報 』第 6 1 号

視聴覚部会

1 視聴覚部会総会

会 場 新発田市ますがた荘
期 日 8月17日(水) 夏期講習2日目
参加者 11名
議 題

- (1)平成27年度事業総括
- (2)平成27年度決算報告
- (3)平成28年度事業計画
 - ・新日本語アクセント辞典の購入と会員貸与
 - ・視聴覚教育研究の発行方法
- (4)平成28年度予算
 - ・繰越金の取り扱いについて
- (5)平成28年度役員
 - ・部 長
糸魚川白嶺高等学校長 須藤 良平
 - ・副部長
白根高等学校長 富樫 信浩
十日町総合高等学校教頭 阿部 正一
 - ・幹 事
長岡工業高等学校 平倉 政弘
- (6)会員確保について

2 指導者研修の実施

当部会で実施される教職員向けの研修は、視聴覚・放送教育に関わる指導者の指導技術の研修を中心に実施しています。また、県内放送部生徒向け講習を実施する際に、引率顧問と共に参加してもらうことで研修を実施しています。

※以下人数は参加教職員数

(1)放送技術初心者講習

校内で視聴覚、放送活動を指導する際に最低限必要なアナウンスや機器運用技術の知識や指導方法を研修。

- ・新潟下越地区 5月1日(日) 実施
万代市民会館にて 参加12人
- ・上中越地区 5月3日(火) 実施
まちなかキャンパス長岡にて 参加5人

(2)放送技術者夏期講習会

放送技術の実践的指導方法とコンテスト対策について研修。

8月16日(火)～8月17日(水) 実施
新発田市ますがた荘・サンワークしばたにて 参加者15人

(3)北信越高等学校選抜放送大会期間中

北信越各県指導者との活動報告及び情報交換(研究協議)

2月4日(土) 実施 延べ人数44人

3 コンテストの主催及び共催

本部会では、放送コンテスト県内大会の主催および高文連放送専門部との共催を行い、こうした大会の審査を通して指導技術の向上を図っています。また、日程・大会結果は、本部会発行誌「視聴覚教育研究」に掲載します。

- (1)NHK 杯全国高等学校放送コンテスト新潟県大会(主催)
- (2)Q k 杯新潟県校内放送コンクール(共催)
- (3)北信越高等学校選抜放送新潟大会(共催)

4 刊行物

名 称 視聴覚教育研究 第53号

発行日 平成28年度末

部 数 100冊

内 容

- ・部長挨拶
- ・視聴覚教育の今後 ・総会報告
- ・平成28年度コンテスト結果
- ・読み部門の技術指導について
- ・番組部門の技術指導について
- ・夏期講習会を実施して
- ・NHK杯全国大会に参加して
- ・全国高等学校総合文化祭に参加して
- ・平成28年度事業報告
- ・部会規約 ・編集後記

定通部会

I 定時制・通信制教育総合研究会

期 日 平成 28 年 7 月 26 日 (火)
会 場 NSG 学生総合プラザSTEP
当番校 長岡英智高等学校
参加者 154 名
主 題 「未来に向かって生徒の可能性を
拓く定時制・通信制教育の推進」

1 研究発表

(1) 学習指導・進路指導

「家庭科におけるキャリア教育の効果的な
指導について～人間生活全体を視野に入れた
生活キャリアの視点から～」

荒川高等学校 教諭 倉内 有実

(2) 生徒指導

「本校の生徒指導の現状と課題～特別な
支援を必要とする生徒への具体的取り組
み～」

出雲崎高等学校 教諭 高澤 亮太

(3) 特別支援教育

「文部科学省事業『高等学校における個々
の能力・才能を伸ばす特別支援教育』の実
践について」

新潟市立明鏡高等学校 教諭 松浦 洋好

【指導助言】

高等学校教育課指導主事 尾上 博司

2 講演

「I believe 信じる未来へ～不登校から定時
制高校（明鏡高校）そして、今～」

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ

まなび事業本部 教育機関広報統括部営業 2 部

東北グループ 山本 一輝



講師 山本 一輝 様

II 役員会総会・理事会

<第1回>

期 日 平成 28 年 5 月 31 日 (火)
会 場 新潟翠江高等学校
議 事 平成 28 年度役員の委嘱について
報 告 平成 27 年度事業報告
平成 27 年度決算報告
協 議 平成 28 年度事業計画について
平成 28 年度予算について
平成 28 年度定通総研について

<第2回>

期 日 平成 29 年 2 月 13 日 (月)
会 場 明鏡高等学校
報 告 平成 28 年度事業報告
平成 28 年度決算中間報告
協 議 平成 29 年度事業計画について
平成 29 年度定通総研について

III 各校情報交換会

期 日 平成 28 年 11 月 8 日 (火)
会 場 長岡明德高等学校
参加者 49 名
内 容 (1) 授業見学・校舎見学
(2) 情報交換 (分科会)
①定時制教務
②通信制教務
③生徒指導・特別支援
④進路指導



進路指導部会の様子

IV 県外視察

期 日 平成 28 年 11 月 10 日 (木)、
11 日 (金)
視察校 山形県立霞城学園高等学校
仙台市立仙台大志高等学校
参加者 3 名

V 刊行物

実践集録 54 号 (平成 29 年 2 月中旬発行)

研究会・講習会等の開催	目的	国語授業の改善と指導力の向上		
	期 日	6月22日(水)	10月28日(金)	1月31日(火)
	場 所	じょいあす新潟会館	新発田高校	じょいあす新潟会館
	研究会名称	運営委員会 代議員会	全県研究協議会	運営委員会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	年度計画の検討 全県研究協議会 の実施計画	「思考力・判断力・ 表現力の育成を目 指した授業改善に ついて」 「『源氏物語』に おける父性愛」	年度活動の反省 次年度活動計画
	講 師 職 氏 名		新潟大学名誉教授 宮崎 莊平 氏	
	研究発表 テーマ・職・氏名		① ファシリテーション の手法を用いた授業 改善～『国語総合』の 授業実践から 小千谷高校教諭 長谷川 尚子 ② 生徒の能動的な「詩」 の解釈の授業実践～ 「未確認飛行物体」 (入沢康夫)を題材に 柏崎 翔洋 中等教育学校教諭 山田 晶子 指導主事講評 県立教育センター 山本 寛 指導主事	
	参加者数	16名	73名	14名
研修分野の分類	②	①②③⑤⑥	①	
研究調査	主要テーマ	特になし		
	調査の期日 場所・参加者数			
図書購入	図書名 冊数	特になし		
刊行物 研究成果 出版	名 称	『国語研究』第63集		
	主 な 内 容	研究協議会発表・講演内容、各種研究研修報告等		
	冊 数	200冊		

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 国語部会 平成29年度事業計画（案）

部長 中戸 義文

研究会・講習会等の開催	目的	国語授業の改善と指導力の向上		
	期 日	6月21日（水）	10月27日（金）	29年1月
	場 所	じょいあす新潟会館	佐渡地区	じょいあす新潟会館
	研究会名称	運営委員会 代議員会	全県研究協議会	運営委員会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	年度計画の検討 全県研究協議会 の実施計画	「思考力・判断力・ 表現力の育成を目 指した授業改善に ついて」 講演テーマ未定	年度活動の反省 次年度活動計画
	講 師 職 氏 名		講師未定	
	研究発表 テーマ・職・氏名		発表者未定（2名） 指導主事講評 県立教育センター 山本 寛 指導主事	
参加者数	15名	約60名	15名	
研究分野の分類		②	①、②、③、⑤、⑥	②
研究調査	主要テーマ	特になし		
	調査の期日 場所・参加者 数			
図書購入	図書名数	特になし		
刊行研究成果版	名 称	『国語研究』64集		
	主 な 内 容	研究協議会発表・講演内容、各種研究研修報告等		
	冊 数	200冊		

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

部長 武内 均

研究会・講習会等の開催	目的	地理歴史・公民教育の諸問題に関する研究		
	期日	7月1日(金)	8月8日(月) ・9日(火)	9月2日(金)
	場所	新潟市万代市民会館	新潟会館 新潟市秋葉区	新発田高校
	研究会名称	総会・研究協議会	地理研究会	歴史研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「主権者教育について」	地理教育に関する講演、 巡検(新潟市秋葉区の歴史と産業)	「学知に基づき、学知につなげるアクティブラーニング」
	講師職氏名	明治大学特任教授 藤井 剛 様	獨協大学教授 秋本 弘章 様	東北福祉大学教授 下山 忍 様
	研究発表 テーマ・職・氏名	○実践報告 「主権者教育の取り組み～『私たちが拓く日本の未来』を活用した授業～」 ・報告者 丸山 玲奈(長岡大手) ○講演	○講演(8日) ○巡検(9日) 石油の里公園～小須戸～ 総合車両製作所(旧JR東日本新津車両製作所)	○公開授業 日本史探究・日本史B ・授業者 竹田 和夫(新発田) ○研究協議 「学知に基づき学知につなぐアクティブ・ラーニングをどう推進するか」 「新科目歴史総合(仮称)実施に向けての取り組み」 ○講演
	参加者数	43名	20名	37名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①②③	①②⑤	①②④⑥	
研究調査	主要テーマ			
	調査の期日 場所・参加者数			
購図書	図書名 冊数			
刊行研究成果出版	名称	『地理歴史・公民研究』 第55集		
	主内容	研究会報告、研究論文・実践報告、私の教材紹介、センター試験問題講評、地歴、公民の広場など		
	冊数	330冊		

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 地歴・公民 部会 平成29年度事業計画（案）

部長 武内 均

研究会・講習会等の開催	目的	地理歴史・公民教育の諸問題に関する研究		
	期 日	7月上旬	8月9日(水) ・10日(木)	未定
	場 所	新潟市万代市民会館	十日町市内	未定
	研究会名称	総会・研究協議会	地理研究会	公民研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定	「雪・きもの・まちづくり、大地の芸術祭の里（仮）」	未定
	講師職氏名	未定	未定	未定
	研究発表 テーマ・職・氏名	○実践報告 ○講演	○講演(9日) ○巡検(10日) 十日町市内を巡検	○実践報告
	参加者数	未定	未定	未定
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①②③	①②⑤	①②④⑥	
研究調査	主要テーマ			
	調査の期日 場所・参加者数			
図書購入	図書名数			
刊 研 行 究 物 成 出 果 版	名 称	『地理歴史・公民研究』 第56集		
	主 内 容	研究会報告、研究論文・実践報告、私の教材紹介、センター試験問題講評、地歴、公民の広場など		
	冊 数	330冊		

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 数学部会 平成28年度事業報告書

部長 上 杉 肇

研究会・講習会等の開催	目 的	学力の向上を目指した数学教育の研究		
	期 日	6月30日(木)	10月12日(水)	12月9日(金)
	場 所	上越地区 (柏崎市立図書館)	新潟地区 (新潟中央高等学校)	中越地区 (アトリウム長岡)
	研究会名称	数学教育研究会	全県研究協議会	地区研究協議会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	高等学校における 数学教育の諸問題 について 『数学の研究と教育を通して 思うこと』	高等学校における 数学教育の諸問題 について 『創造の醍醐味：数学と音楽』	高等学校における 数学教育の諸問題 について 『「アクティブラーニング (能動的学習)型」授業の 意義・効果・始め方』
	講師職氏名	新潟大学理学部 数学科教授 羽鳥 理 氏	ジャズピアニスト、 数学者 中島 さち子 氏	産業能率大学 経営学部教授 小林 昭文 氏
	研究発表 テーマ・職・氏名	『新潟大学入試問題 の分析について』 県立新潟江南高等学校 教諭 石塚 正宏	『「問題づくり」を通 じた主体的な活動への取 り組み』 県立長岡高等学校教諭 長谷川 孝	『生徒の学習内容の理 解・定着を目指して～ 数学Ⅱ「等式の証明」 の授業から～』 県立柏崎常盤高等学校 教諭 佐々木 悦子
参加者数	78名	103名	91名	
研修分野の分類	①、②	②、①、③	②、③、⑦	
研究調査	主要テーマ	数学力向上のための意欲を引き出す授業展開		
	調査の期日 場所・参加者数	県内各高等学校		
購図書	図書名 冊数	なし		
刊行研究成果 出版物 版	名 称	『数学教育研究集録』第55号		
	主 容	会員の実践研究、研究大会報告及び講演内容		
	冊 数	350冊		

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 数学部会 平成29年度事業計画（案）

部長 上 杉 肇

研究会・講習会等の開催	目 的	学力の向上を目指した数学教育の研究			
	期 日	6月（予定）	10月（予定）	11月（予定）	12月（予定）
	場 所	下越地区 （未定）	中越地区 （未定）	新潟地区 （未定）	上越地区 （未定）
	研 究 会 名 称	数学教育研究会	全県研究協議会	中高連絡協議会	地区研究協議会
	研 究 会 テ ー マ	高等学校における数学教育の諸問題について	高等学校における数学教育の諸問題について	教科における中高の指導方法について	高等学校における数学教育の諸問題について
	「講演テーマ」	未定	未定	未定	未定
	講 師 職 氏 名	未定	未定	未定	未定
	研 究 発 表 テ ー マ ・ 職 ・ 氏 名	「新潟大学入試問題の分析について」 未定	未定	未定	未定
参 加 者 数	80名（予定）	80名（予定）	70名（予定）	80名（予定）	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①、③	①、③	①、③、⑥	①、③	
研究調査	主 要 テ ー マ	数学力向上のための意欲を引き出す授業展開			
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数	県内各高等学校			
図書購入	図 書 名 冊 数				
刊 行 物 成 果 出 版	名 称	『数学教育研究集録』第56号			
	主 内 容	会員の実践研究、研究大会報告及び講演内容			
	冊 数	350冊			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

部長 高倉 聡

研究会・講習会等の開催	目的	理科教育の研究・発展に資する			
	期日	7月7日 (木)	11月17日 (木)	11月21日 (月)	11月29日 (火)
	場所	新潟薬科大学	新潟大学理学部	新潟江南高校	新潟高校
	研究会名称	第1回役員会	地学教育研究会	化学教育研究会	生物教育研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「応用生命科学部 理科教職コースの成果と今後の方向性～一期生の挑戦～」	「越後平野の生い立ちと越後平野西縁断層の活動」	「『高校生のための化学塾』における取り組みについて」	「真核生物染色体のセントロメア領域のクロマチン構造と機能」
	講師職氏名	新潟薬科大学 寺木秀一 木村哲郎	新潟大学 久保田義裕	新潟薬科大学 杉原多公通	早稲田大学 理工学術院 胡桃坂仁志
	研究発表 テーマ・職・氏名			「実験ノートの活用例」(村上中等教育学校 尾崎巧)「課題研究と授業実験の連携～生徒が主体的・協働的に問題を解決するための取り組み」(新潟高校 北畑雄一郎)「学ぶ意欲を高め、確かな学力を身につけるための教育内容・方法の充実～多用な学習成果を多面的に評価する方法の確立に向けて～」(新潟江南高校 井上逸世)	「高校生物における『学び合い』の実践」(分水高校 川内務) 「新潟南高校のSSHについて」(新潟南高校 笹川道博) 「ハクセキレイのヘルパー」(吉田高校 本間巖) 「DNAバーコーディング」(万代高校 相馬泰)
	参加者数	25名	15名	23名	34名

研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		⑦	①	①	①
研究調査	主要テーマ	新カリキュラムの研究・対応した活用集の改定作業			
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図冊 書名数				
刊行研究成果出版	名称	「理科研究集録」第56号			
	主内容	講演、研究成果の発表			
	冊数	350冊			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

部長 高倉 聡

研究会・講習会等の開催	目的	理科教育の研究・発展に資する			
	期日	12月8日 (木)	2月15日 (水)		
	場所	柏崎高校	新潟県立 自然科学館		
	研究会名称	物理教育研究会	第2回役員会		
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「新潟工科大学の物理教育～アクティブラーニングの試み～」	実演見学 「液体窒素の実験」		
	講師職氏名	新潟工科大学 柿沼藤雄	新潟県立自然科学館 山口勇氣		
	研究発表 テーマ・職・氏名	「生徒の思考と交流を促す学習課題の検討②」 (新潟県中央工業高校 山本岳) 「熱(熱容量・比熱)に関する演示実験」(糸魚川高校 高野大介) 「開志国際高校の紹介と理科の取組」(開志国際高校 島田元之) 「アクティブ・ラーニングの動向と先進校の取組」(松代高校 長谷川雅一) 「体験型授業の取り組みと実験キットの紹介」(新潟高校 小熊好弘)			
	参加者数	21名	24名		

研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		①	⑦		
研究調査	主要テーマ	新カリキュラムの研究・対応した活用集の改定作業			
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図冊 書名数				
刊行研究成果出版	名称	「理科研究集録」第56号			
	主内容	講演、研究成果の発表			
	冊数	350冊			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

研究会・講習会等の開催	目的	理科教育の研究・発展に資する			
	期 日	6, 7月 ()	()	()	()
	場 所	未定			
	研究会名称	第1回役員会	物理研究会	化学研究会	生物研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	平成29年度活動計画・予算案 「 」	未定 「 」	未定 「 」	未定 「 」
	講師職氏名				
	研究発表 テーマ・職・氏名				
	参加者数				
	期 日	()	1, 2月 ()	()	()
	場 所				
	研究会名称	地学研究会	第2回役員会		
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定 「 」	平成30年度活動計画 「 」	「 」	「 」
	講師職氏名				
	研究発表 テーマ・職・氏名				
	参加者数				
	研究調査	主要テーマ			
調査の期日場所・参加者数					
図書	図書名・冊数				
刊 成 行 果	名称・内容・冊数	理科研究集録 第57号 350冊			

研究会・講習会等の開催	目的	会員相互の研修を深め芸術教育の向上をはかる				
	教科	全体	音楽	美術・工芸		書道
	期日	6月23日(木)	10月31日(月)	8月9日(火)	8月19日(金)	12月13日(火)
	場所	県立柏崎常盤高等学校	県立新潟中央高等学校	長岡造形大学近現代美術	県立上越総合技術高等学校	県立教育センター
	研究会称	芸術部会総会 研究協議会	音楽研究会 文部科学省 研修会報告	第31回県美大会 プレ大会	美術・工芸科 研修会	書道科研修会
	研究会テーマ 「講演会テーマ」	総会 公開授業(音楽) 実践発表 (美術・工芸、書道) 研究協議会	ロシアンメソッド ピアノレッスン 見学 日本の伝統音楽の 研修成果について	大会テーマ 「HIRAKU」 「かかわりつな がりみつめる」	実技研修会 「ステンドグラ ス」の実習	授業研究会
	講師職氏名				ガラス工房falaj 丸山 淳代	
	研究発表 テーマ・職 氏名	【音楽】 公開授業 県立柏崎常盤高等 学校 教諭 田邊 美栄子 「イメージをもっ て味わいながら歌 う『椰子の実』」 【美術・工芸】 実践発表 県立新井高等学 校 教諭 竹之内 泰子 「絵本制作」 【書道】 実践発表 県立高田南城高等 学校 教諭 坂井 真知子 「千字文の全臨を ととして」	【文部科学省研修 会報告】 平成28年度伝統音 楽指導者研修会報 告 県立長岡明德高等 学校 教諭 星野 睦	ワークショップ 参加校 県立長岡商業高 等学校 校種間パネルト ーク 高校の部パネラ ー 県立小千谷西高 等学校 教諭 田中 幸男		【授業研究発表】 県立荒川高等学校 教諭 長津 綾子 【教材研究発表】 県立新潟西高等学校 教諭 藤原 香代子 【教材研究指導講評 及び実習指導】 (ICTの活用につい て) 県立教育センター 指導主事 小熊 直子
	参加者数	72名	17名	4名	8名	16名
	研修分野の分類	⑥ ③	⑤ ④	③	⑦	③ ④
調査調	主要テーマ					
購書	③ 調査の 期日・場 所数 ・参加者					
刊行物出版	図書名 冊数					
研究成果	名称	平成28年度高教研芸術部会報告				
	主内容	総会・研究協議会及び各科研修会の報告・まとめ				
	冊数	90部				

研究会・講習会等の開催	目的	会員相互の研修を深め芸術教育の向上をはかる				
	期 日	6月	10月	8月19日 (金)	8月中旬	未定
	場 所	県立新発田 農業高等学校 (予定)	未定	長岡造形 大学	ギャラリー ーみつけ	未定
	研究会名称	芸術部会総会 研究協議会	音楽科研修会	第31回新潟 県美術教育 研究大会 中越大会	美術科研修 会	書道科研修会
	研究会 テーマ 「講演会テーマ」	総会 公開授業 研究協議会 分科会	公開授業 レッスン見学	HIRAKU 「かかわりつな がりみつめる」	実技研修 会	未定
	講師職氏名	講演会なし	未定	聖徳大学 児童学部長 教授 奥村高明氏	未定	未定
	研究発表 テーマ・ 職・氏名	【音楽】 公開授業 【美術・工芸】 実践発表 【書道】 実践発表				
	参加者数	80名	30名	18名	18名	28名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数 選択可。主となるテーマを 先頭に	⑥ ③	⑥ ⑤	④ ③ ⑤	⑦	② ⑦	
研究調査	主要テーマ	県外芸術教育先進校視察				
	調査の期日 場所・参加 者数	未定				
購入図書	図書名数	未定				
刊行研究成果 出版物版	名 称	未定				
	主 内 容	未定				
	冊 数	未定				

研究会・講習会等の開催	目的	英語教育の推進と向上		
	期日	8月16日(火)	10月28日(金)	2月25日(土)
	場所	アオーレ長岡	新潟経営大学	アオーレ長岡
	研究会名称	夏季研修会	全県英語科研究会	授業力向上セミナー
	研究会テーマ 「講演テーマ」	英語教育の推進と向上	英語教育の推進と向上 「英語で伝えたい日本文化」	英語教育の推進と向上
	講師職氏名	根立望(新発田高等学校教諭)	江口裕之(CEL 英語ソリューションズ 最高教育責任者)	和泉伸一(上智大学外国語学部教授)
	研究発表 テーマ・職・氏名	実践および研究発表： 高橋有香(新潟中央高校教諭) 金子暢也(新潟西高校教諭) 高松利治(新発田高校教諭) 石井美乃(長岡農業高校教諭)	実践発表： 長谷川耕市(新発田商業高校教諭) 河内一修(燕中等教育学校教諭) 荒木美恵子(長岡高校教諭) 研究報告： 根立望(新発田高校教諭) 丸山智恵子(国際情報高校教諭) 水戸直和(村上中等教育学校教諭)	実践発表： 百瀬美帆(千葉県立長生高校教諭) 木村純一郎(北海道札幌国際情報高校教諭)
	参加者数	81名	92名	94名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に	2, 3, 7	2, 3, 7	2, 3, 7	
研究調査	主要テーマ			
	調査の期日 場所・参加者数			
図書	図書名 冊数			
研究成果	名称	英語部会誌 第61号		
	主内容	研修会報告、研究会報告		
	冊数	350部		

研究会・講習会等の開催	目的	英語教育の推進と向上	
	期日	10月8日(土)	11月13日(日)
	場所	柏崎エネルギーホール(上・中越) 県立新潟高校視聴覚室 (下越・佐渡)	クロスパルにいがた
	研究会名称	高校生英語スピーチコンテスト予選	高校生英語スピーチコンテスト本選
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「 」	「 」
	講師職氏名		
	研究発表 テーマ・職・氏名		
	参加者数	77名	20名
研究調査	主要テーマ		
	調査の期日場所・参加者数		
図書購入	図書名・冊数		
研究 刊 行 成 果	名称・内容・冊数		

研究会・講習会等の開催	目的	英語教育の推進と向上	
	期日	10月22日(土) 10月23日(日)	
	場所	国際情報大学	
	研究会名称	第4回 新潟県高校生英語ディベート大会	
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「 」	
	講師職氏名		
	研究発表 テーマ・職・氏名		
	参加校数	4校12チーム	
研究調査	主要テーマ		
	調査の期日場所・参加者数		
図書購入	図書名・冊数		
研究 刊行 成果	名称・内容・冊数		

研究会・講習会等の開催	目的	英語教育の推進と向上			
	期日	8月上旬	11月22日、23日	10月	11月
	場所	未定	りゅーとぴあ、朱鷺メッセ	未定	未定
	研究会名称	夏季研修会	全英連新潟大会	高校生スピーチコンテスト(予選)	高校生スピーチコンテスト(本選)
	研究会テーマ 「講演テーマ」	英語教育の推進と向上 「未定」	英語教育の新潟から未来へ！～交流・喜び・成長あふれる英語教育の推進～ 「未定」	「 」	「 」
	講師職氏名	未定	太田光春先生 (名古屋外国語大学教授)		
	研究発表 テーマ・職・氏名	実践発表 県内英語科 教諭	研究発表 県内英語科 教諭		
	参加者数	100名	1000名		
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	2, 3, 7	2, 3, 7			
研究調査	主要テーマ	予定なし			
	調査の期日 場所・参加者数	予定なし			
購入図書	図書名冊数	予定なし			
刊行物出版	名称	「英語部会誌」62号			
	主内容	研修会報告、研究会報告、寄稿			
	冊数	350部			

平成28年度 新潟県高等学校教育研究会 農業部会事業報告書

部長 竹内 公英

研究会・講習会等の開催	目的	農業教育の充実と発展		
	期日	平成28年 8月9日(火)~10日(水)	平成28年 10月6日(木)	平成28年 12月8日(木)
	場所	万代シルバーホテル	長岡農業高等学校	(株)脇坂園芸 旧「阿賀野市立大和小学校」
	研究会名称	農業教育研究大会(高田農業) 農場協会北信越支部大会(新発田農業)	農業教育課題研究会 (長岡農業高等学校)	農業教育課題研究会 (新発田農業高等学校)
	研究会テーマ 「講演テーマ」	地方創生の核となるべき農業教育を推進しよう 「循環型社会形成を目指して」 ~バイオマスエネルギー農業利用システム~	科目「食品製造」 における穀類の加工と和菓子に関する研究について	地域社会の課題に取り組む農業教育の実践について
	講師職氏名	(株)開成 代表取締役 遠山 忠宏様	(有)司生林堂 取締役 神林 浩司様	(株)脇坂園芸 脇坂 裕一様
	研究発表 テーマ・職・氏名	第1分科会:郷土愛を軸とした地域農業や地域社会を担う人材の育成について 第2分科会:グローバルな視点を持った地域産業や地域社会との連携について 第3分科会:生徒が夢や希望を持ち、地域社会の課題に取り組む農業教育の実践について	各校の科目「食品製造」の年間指導計画(製造計画)および、食品衛生に関する取り組み状況について	先進農業経営の実践報告(講演)と現場見学により、地域社会の課題に取り組む農業教育の実践に資する
	参加者数	103名	19名	13名
研究調査	主要テーマ			
	調査の期日 場所・参加者数			
図書購入	図書冊数			
	冊数			
刊行物出版	名称	『新潟県農業教育研究会誌』第51号 (加茂農林高校)		
	主内容	研究論文・報告文・トピックス・その他		
	冊数	170冊		

平成29年度 新潟県高等学校教育研究会 農業部会事業計画（案）

部長 竹内 公英

研究会・講習会等の開催	目的	農業教育の充実と発展		
	期日	平成29年 8月21日(月)	未定	未定
	場所	じよいあす新潟会館	未定	未定
	研究会名称	農業教育研究大会（新発田農業高等学校）	農業教育課題研究会 （高田農業高等学校）	農業教育課題研究会 （加茂農林高等学校）
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定	未定	未定
	講師職氏名	未定	未定	未定
	研究発表 テーマ・職・氏名	第1分科会：未定 第2分科会：未定 第3分科会：未定	未定	未定
	参加者数	()名	()名	()名
研究調査	主要テーマ			
	調査の期日 場所・参加者数			
入 図書購	図書 冊数			
刊 行 物 出 版 研 究 成 果	名 称	『新潟県農業教育研究会誌』第52号 （高田農業高等学校）		
	主 内 容	研究論文・報告文・トピックス・その他		
	冊 数	170冊		

(見学会・講習会の部)

部長 安達 弘哉

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	7月1日(金)	10月6日(木)	10月7日(金)	10月7日(金)
	場所	燕三条地場産センター シマト工業(株)	(株)リケン 柏崎事業所	三条防災ステーション	J Aにいがた 南蒲南低温倉庫
	研究会名称	電気・電子見学会	機械・電子機械見学会	土木・建築施設見学会	土木・建築現場見学会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	風車の見学 発電機製作概要ならびに工場見学	(株)リケン柏崎事業所見学会	防災関係見学会	建設現場見学会
	講師職氏名				
	研究発表 テーマ・職・氏名				
	参加者数	12名	25名	21名	21名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	① ⑤	① ⑤	① ⑤	① ⑤	
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名数				
刊行研究成果出版	名称	新潟県工業教育紀要 第53号			
	主内容	工業教育(講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など)の平成28年度研究集録			
	冊数	220冊			

(見学会・講習会の部)

部長 安達 弘哉

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	10月7日(金)	1月24日(火)	()	()
	場所	(株)ニューワタナベ長岡工場	新潟工科大学		
	研究会名称	工業化学見学会	ロボット技術研究協議会		
	研究会テーマ 「講演テーマ」	(株)ニューワタナベ長岡工場見学会	ロボット技術研究協議会及び研究発表会 「 」	「 」	「 」
	講師職氏名				
	研究発表 テーマ・職・氏名	① ⑤	① ③ ⑦		
	参加者数	12名	145名		
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に					
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名数				
刊行研究成果出版	名称	新潟県工業教育紀要 第53号			
	主要内容	工業教育(講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など)の平成28年度研究集録			
	冊数	220冊			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

(研究会の部)

部長 安達 弘哉

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期 日	7月1日(金)	8月1日(月) 2日(火)	10月6日(木)	10月6日(木) 7日(金)
	場 所	新潟県中央工業 高校	柏崎文化会館 アルフォーレ ホテルサンシャイン	柏崎工業高校	新潟県中央工業 高校
	研 究 会 名 称	電気・電子研究会	工業化学研究会	機械・電子機械 講演会・研究会	土木・建築講演会
	研 究 会 テ ー マ 「講演テーマ」	「エコ発電装置 についての 研究会」	北信越工業化学 教育研究大会	「最新の技術に よる技能の低下」 教材教具研究会	「気象条件からの安全 対策」 「多発する自然災害～ ハード・ソフト両面か ら考える防災学習～」
	講 師 職 氏 名				
	研 究 発 表 テーマ・職・氏名	エフテック(株) 代表取締役 渡辺 諭		(株)酒井鉄工所 渡辺 裕一	新潟気象台広域防災 管理官 栗田智己 NPO法人新潟ボランテ ィアネットワーク 李仁鉄
	参 加 者 数	12名	20名	25名	21名
研 修 分 野 の 分 類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①	① ③	① ③	①	
研 究 調 査	主 要 テ ー マ				
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数				
図 書 購 入	図 冊 名 数				
刊 行 物 成 果 出 版	名 称	新潟県工業教育紀要 第53号			
	主 内 容	工業教育(講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など)の平成28年度研究集録			
	冊 数	220冊			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

(研究会の部)

部長 安達 弘哉

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期 日	10月6日(木)	()	()	()
	場 所	新潟県中央工業高校			
	研究会名称	土木・建築研究協議会			
	研究会テーマ 「講演テーマ」	建築・土木教育の現状と課題	「 」	「 」	「 」
	講師職氏名				
	研究発表 テーマ・職・氏名				
	参加者数	21名			
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①				
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名数 冊				
刊 行 物 成 果 出 版	名 称	新潟県工業教育紀要 第53号			
	主 内 容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の平成28年度研究集録			
	冊 数	220冊			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

（見学会・講習会の部）

部長 安達 弘哉

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	未定	未定	未定	未定
	場所	未定	未定	未定	未定
	研究会名称	電気・電子見学会	機械・電子機械見学会	建築見学会	土木見学会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「 」	「 」	「 」	「 」
	講師職氏名				
	研究発表 テーマ・職・氏名				
	参加者数				
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に					
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名数				
刊行研究成果出版	名称	新潟県高等学校工業教育紀要第54号			
	主内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の平成29年度研究集録			
	冊数	220冊			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

（見学会・講習会の部）

部長 安達 弘哉

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	10月6日（金）	1月中旬		
	場所	未定	未定		
	研究会名称	工業科学 見学会	ロボット技術 研究協議会		
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「 」	ロボット技術 研究協議会 「 」	「 」	「 」
	講師職氏名				
	研究発表 テーマ・職・氏名				
	参加者数				
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に					
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名数				
刊行物出版	名称	新潟県高等学校工業教育紀要第54号			
	主内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の平成29年度研究集録			
	冊数	220冊			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示
②

（研究会の部）

部長 安達 弘哉

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	未定	未定	未定	未定
	場所	未定	未定	未定	未定
	研究会名称	電気・電子研究会	機械・電子機械研究会	土木研究会	建築研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「 」	「 」	「 」	「 」
	講師職氏名				
	研究発表 テーマ・職・氏名				
	参加者数				
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に					
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名数				
刊行研究成果出版	名称	新潟県高等学校工業教育紀要第54号			
	主内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の平成29年度研究集録			
	冊数	220冊			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

（研究会の部）

部長 安達 弘哉

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	10月6日（金）	未定（ ）	未定（ ）	未定（ ）
	場所	未定	未定	未定	未定
	研究会名称	工業化学研究会			
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「 」	「 」	「 」	「 」
	講師職氏名				
	研究発表 テーマ・職・氏名				
	参加者数				
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に					
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名数				
刊行物出版	名称	新潟県高等学校工業教育紀要第54号			
	主内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の平成29年度研究集録			
	冊数	220冊			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 商業部会 平成 28 年度事業報告

研究会・講習会等の開催	目的	教員の商業科目における総合分野の研修
	期日	10月20日(木)
	場所	新潟県立新発田商業高校 , 菊水酒造株式会社
	研究会名称	平成28年度新潟県高等学校教育研究会 商業部会
	「講演テーマ」	演題『若者を日本酒で感動させたいプロジェクト』
	講師職氏名	菊水酒造株式会社 生産部製造グループ アシスタントマネージャー 伊藤 淳 様 菊水酒造株式会社 営業部マーケティング室長 長谷川 洋平 様
	研究発表 テーマ・職・氏名	なし
	参加者数	8校 15名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①専門分野（総合分野） ⑤見学会 ⑥公開授業	
研究調査	主要テーマ	なし
	調査の期日 場所・参加者数	なし
図書購入	図書冊数	なし
刊行研究成果 出版物版	名称	新潟県商業教育 第52号
	主内容	なし
	冊数	147冊

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

研究会・講習会等の開催	目的	経済社会の発展を担う商業教育			
	期 日	11月（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
	場 所	吉田高校			
	研究会名称	未定			
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定 「 」	「 」	「 」	「 」
	講師職氏名				
	研究発表 テーマ・職・氏名				
	参加者数				
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	未定				
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名数 冊				
刊 行 物 成 果 出 版	名 称	『新潟県商業教育』第53号			
	主 内 容	1. 研究論文 2. 実技競技大会報告 3. 専門委員会報告 4. 各種研究会報告 5. その他			
	冊 数	380冊			

研究会・講習会等の開催	目的	水産・海洋教育の充実と発展を目指す		
	期日	平成28年12月1日（木）	（ ）	（ ）
	場所	糸魚川市（県立海洋高等学校）		
	研究会名称	平成28年度水産教育研究会		
	研究会テーマ 「講演テーマ」	水産海洋教育の充実 「新・ご当地グルメで漁業と地域を活性化！～ヒロ中田流「食」プロデュース術～」		「 」 「 」
	講師職氏名	(株)リクルートライフスタイル エグゼクティブプロデューサー 中田博人		
	研究発表 テーマ・職・氏名	教科指導に関する実践報告 教諭 矢口沙保里 教諭 金子義昂		
参加者数	23名			
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①③			
研究調査	主要テーマ			
	調査の期日 場所・参加者数			

図書購入	図 冊 書 名 数	(1)建設車両の仕組みと構造、(2)史上最強図解これならわかる！機械工学、(3)知って納得！機械のしくみ、(4)詳説2級土木施行管理技術検定試験過去5年問題集、(5)図解入門よくわかる最新土木技術の基本と仕組み、(6)学生のための初めて学ぶ土木工学、(7)わかりやすい土木の実務、(8)図説土木用語事典、(9)マンガでわかる土質力学、(10)マンガでわかるコンクリート、(11)事例から学ぶ潜水事故対策、(12)一発合格！よく分かる潜水士試験完全攻略テキスト&問題集、(13)簡単だから伝わる！語学力いらずの3ステップおもてなし術、(14)観光サービス論、(15)日本産魚類検索全種の同定、(16)日本の漁業が崩壊する本当の理由、(17)魚と日本人一食と職の経済学、(18)魚が食べられなくなる日、(19)国際資源管理認証：エコラベルがたなぐグローバルとローカル、(20)海と人と魚、(21)漁師と水産業 漁業・養殖・流通の秘密、(22)日本人が知らない漁業の大問題、(23)日本漁業の真実、(24)魚はどこに消えた？ 崖っぷち日本の水産業界を救う、(25)ああそういうことか！ 漁業のしくみ、(26)日本の水産業界は復活できる！、(27)漁業という日本の問題、(28)日本の魚は大丈夫かー漁業は三陸から生まれ変わる以上28冊
刊 行 物 出 果 版	名 称 主 内 容 冊 数	平成28年度水産教育研究 平成28年度 水産教育研究のまとめ 40

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 家庭科部会 平成28年度事業報告

部長 吉原 満

研究会・講習会等の開催	目的	家庭科教育の充実と発展	
	期 日	8月19日（金）	12月1日（木）
	場 所	アトリウム長岡	長岡大手高等学校
	研究会名称	全県講習会	部会委員会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	実践力を育てる生徒参加型授業 1 講演・演習 「くらしとリスク管理」 2 講演・演習 「高校生の将来の夢実現に向けての食生活支援を考える」 ～新潟県内高校生への アンケート調査結果を踏まえて～	1 報告・計画 平成28年度事業報告 平成29年度事業計画 全国産業教育フェア 石川大会視察報告 2 講習会 「保育技術検定の指導について ～造形表現技術～」
	講師職氏名	講演1 公益財団法人 生命保険文化センター 生活情報室主任 高須 周作 様 一般社団法人 日本損害保険協会 北関東支部担当課長 松代 貴志 様 講演2 新潟医療福祉大学健康栄養学科 学科長 教授 齋藤 トシ子様	講習会 村上桜ヶ丘高等学校 教諭 小田 真由美
	研究発表 テーマ・職・氏名		
参加者数	31名	59名	
研究調査	主要テーマ		
	調査の期日 場所・参加者数		
図購書入	図 書 名 冊 数		
刊 行 物	名 称	家庭科研究52号	
	主 な 内 容	講習会・研究協議・会員の研究など	
	冊 数	160冊	

研究会・講習会等の開催	目的	家庭科教育の充実と発展	
	期日	8月9日（水）	11月30日（木）
	場所	新潟会館	長岡大手高等学校
	研究会名称	全県講習会	部会委員会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定	報告・計画 平成29年度事業報告 平成30年度事業計画 その他未定
	講師職氏名	未定	未定
	研究発表 テーマ・職・氏名	未定	未定
	参加者数		
研究調査	主要テーマ		
	調査の期日 場所・参加者数		
図書購入	図書名数		
刊行研究成果出版	名称	家庭科研究53号	
	主内容	講習会・研究協議・会員の研究など	
	冊数	160冊	

高教研 保健体育部会 平成28年度事業報告書

部長 山田 学

研究会・講習会等の開催	目的	保健体育科教員及び養護教員の研修	
	期日	11月30日(水)	10月4日(火)
	場所	黒埼地区総合体育館	じょいあす新潟会館
	研究会名称	保健体育部会全県研究会	全県養護教諭研修会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	ダンス実技 「初心者も男性教諭も指導できるダンス授業」	養護教諭の行う健康相談における省察の効果 「養護教諭の行う健康相談・健康相談活動」
	講師職氏名	東海大学体育学部教授 中村 なおみ 様	女子栄養大学栄養学部准教授 大沼 久美子 様
	研究発表 テーマ・職・氏名	講話 「授業改善の視点」 新潟県教育庁保健体育課 学校体育指導係指導主事 志田 哲也 様	養護教諭の行う健康相談における省察の効果～プロセスレコードの分析を通して～ 県養研高等学校部 研究推進委員長 井浦 貴子
	参加者数	56名	79名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	⑦①④	①③⑦	
研究調査	主要テーマ	なし	
	調査の期日 場所・参加者数	なし	
図書購入	図書名数	なし	
研究成果 刊行物の出版	名称	研究集録 第52集	
	主内容	研究会、講演会の内容収録	
	冊数	0部・・・HPに掲載	

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 保健体育部会 平成29年度事業計画（案）

部長 山田 学

研究会・講習会等の開催	目的	保健体育科教員及び養護教員の研修	
	期日	12 / 1（金）	10月下旬
	場所	県立高等学校	じょいあす新潟会館
	研究会名称	保健体育部会全県研究会	全県養護教諭研修会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	授業の実際 「実技指導ラグビー」	全県の養護教諭が研修したい内容を精査し、内容を決定する予定
	講師職氏名	ラグビー関係者から決定	全県の養護教諭が研修したい内容を精査し、講師を決定する予定
	研究発表 テーマ・職・氏名	新学習指導要領の解説 文部科学省より派遣	なし
参加者数	50名	80名	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	⑦②⑥	⑦③	
研究調査	主要テーマ	なし	
	調査の期日 場所・参加者数	なし	
図書購入	図書名数	なし	
研究成果 刊行物の出版	名称	研究集録 第53集	
	主内容	研究会、講演会の内容収録	
	冊数	0部・・・HPに掲載	

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

部長 本田 雄二

研究会・講習会等の開催	目的	生徒指導上の諸問題の把握と研鑽	
	期日	10月26日(水)	11月10日(木)
	場所	上越市市民プラザ	巻地区公民館
	研究会名称	上中越地区研究協議会	全県研究協議会
	研究会テーマ「講演テーマ」	生徒指導の課題と対策 「更生保護の現状と課題」	生徒指導の課題と対策 「障害者差別解消法施行にともなう合理的な配慮の実践について」
	講師職氏名	新潟保護観察所 統括保護観察官 堀田 輝 様	新潟県立教育センター 教員支援班 指導主事 中村 悟利 様
	研究発表テーマ・職・氏名	実践発表 「生徒指導の取り組み全般について」 上越高等学校教諭 須田 明美 糸魚川高等学校教諭 和泉 克彦	研究協議 「特別支援について」 「保護者との連携について」 「交通安全指導について」 全体会 ・研究協議報告 ・指導助言 県高等学校教育課 青少年相談支援班 主査 田中茂雄 様
	参加者数	36名	57名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	① ③	① ②	
研究調査	主要テーマ	育てる生徒指導……教師は生徒とどう関わるべきか	
	調査の期日 場所・参加者数	全県委員会を3回実施 場所：県立巻高等学校 会議室 第1回（7月1日20名）第2回（9月9日22名）第3回（1月24日19名）	
購図書	図書名数	なし	
刊行研究成果出版	名称	生徒指導部会誌 第49号	
	主内容	研究内容・資料・部会活動報告	
	冊数	400冊	

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 生徒指導部会 平成29年度事業計画 (案)

部長 本田 雄二

研究会・講習会等の開催	目的	生徒指導上の諸問題の把握と研鑽	
	期 日	未 定	平成29年11月13日(月) もしくは11月10日(金)
	場 所	新潟少年学院	未 定
	研 究 会 名 称	上中越地区研究協議会	全県研究協議会
	研 究 会 テ ー マ 「講演テーマ」	生徒指導の課題と対策 「少年院の現状(仮)」	生徒指導の課題と対策 「自殺予防教育の実践と留意事項について(仮)」
	講 師 職 氏 名	未 定	兵庫県立大学教授 新井 肇 様
	研 究 発 表 テーマ・職・氏名	未 定	未 定
参 加 者 数			
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①②⑤	①②	
研究調査	主要テーマ	育てる生徒指導……教師は生徒とどう関わるべきか	
	調査の期日 場所・参加者数	全県委員会を中心に3回会議を行う 場所：県立巻高等学校 参加予定数 27名	
図書購入	図 書 名 数	な し	
刊 行 物 成 果 出 版	名 称	生徒指導部会誌 第50号	
	主 内 容	研究内容・資料・部会活動報告	
	冊 数	400冊	

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

部長 木村 栄一

研究会・講習会等の開催	目的	1 生徒の実態を踏まえての読書指導あり方 2 情報化社会に対応した図書館運営のあり方			
	期日	8月24日(水)	2月15日(水)	()	()
	場所	生涯学習推進センター	生涯学習推進センター		
	研究会名称	総会・講演会	講演会		
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「魅力ある図書館員の存在が魅せる図書館」	「体験しよう！読む力を伸ばすリーディング・ワークショップ」	「 」	「 」
	講師職氏名	押樋良樹様 (図書館コミュニケーションデザイナー)	峰本義明様 (新潟青陵大学短期大学部准教授)		
	研究発表 テーマ・職・氏名	なし	なし		
参加者数	19名	15名			
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		①	①		
研究調査	主要テーマ	図書館の利用状況に関するアンケート			
	調査の期日 場所・参加者数	1 県内高等学校図書館において適宜行う 2 メールにて調査依頼			
購入図書	図書名数	未定			
刊行物出版	名称	『図書館部報』第61号			
	主内容	研究会・総会報告、研究会等参加報告、研究論文等			
	冊数	200冊			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 図書館部会 平成29年度事業計画（案）

部長 木村 栄一

研究会・講習会等の開催	目的	1 生徒の実態を踏まえての読書指導のあり方 2 情報化社会に対応した図書館運営のあり方			
	期 日	8月	11月	()	()
	場 所	未定	未定		
	研究会名称	総会・講演会	講演会		
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定	未定	「 」	「 」
	講師職氏名	未定	未定		
	研究発表 テーマ・職・氏名	未定	未定		
	参加者数				
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に					
研究調査	主要テーマ	図書館の利用状況に関するアンケート			
	調査の期日 場所・参加者数	1 県内高等学校図書館において適宜行う 2 メールにて調査依頼			
図書購入	図書冊数	未定			
刊 行 物 成 果 出 版	名 称	『図書館部報』第62号			
	主 内 容	研究会・総会報告、研究会等参加報告、研究論文等			
	冊 数	200冊			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

研究会・講習会等の開催	目的	生徒に多様なメディア情報を的確に処理する能力の育成を図るため、教師の力量を高める。			
	期日	5月1日(日)	5月3日(火)	8月16日(火)～17日(水)	2月4日(土)～5日(日)
	場所	新潟市万代市民会館	まちなかキャンパス長岡	新発田市ますがた荘	ホテルニューオータニ長岡
	研究会名称	新潟・下越地区初心者講習会	上越・中越地区初心者講習会	放送技術者夏期講習会／研究協議会／県総会	北信越高等学校選抜放送大会新潟大会／研究協議会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	基礎的放送・視聴覚技術に関する指導方法の習得	基礎的放送・視聴覚技術に関する指導方法の習得	放送技術の実践的指導方法とコンテスト対策	次世代放送活動を担う放送指導者による活動報告と情報交換
	講師職氏名	高文連専門部役員	高文連専門部役員	和田寛忠 波田野峯子	北信越各県指導者
	研究発表 テーマ・職・氏名				
	参加者数	12人	5人	11人	44人(予定)
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	②指導法 ⑦実習・講習	②指導法 ⑦実習・講習	②指導法 ⑦実習・講習	①専門分野	
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
購入図書	図書名冊数	日本語アクセント辞典¥6,709 × 3冊			
刊行研究成果出版	名称	「視聴覚教育研究」第53号			
	主内容	部長挨拶、投稿記事(視聴覚教育の今後、読みと番組の技術指導について、講習会報告、全国大会参加報告等)、平成28年度のコンテスト結果と事業報告、視聴覚部会規約・高等学校教育研究会規約			
	冊数	100冊			

研究会・講習会等の開催	目的	生徒に多様なメディア情報を的確に処理する能力の育成を図るため、教師の力量を高める。				
	期日	5月上旬	5月上旬	6月中旬	8月中旬	11月中旬
	場所	新潟市万代市民会館	まちなかキャンパス長岡	新潟市音楽文化会館	検討中	長岡リリックホール
	研究会名称	新潟・下越地区初心者講習会	上越・中越地区初心者講習会	NHK杯高校放送コンテスト/主催事業	放送技術者夏期講習会/研究協議会/県総会	QK杯校内放送コンテスト/共催事業
	研究会テーマ 「講演テーマ」	基礎的放送・視聴覚技術に関する指導方法の習得。	基礎的放送・視聴覚技術に関する指導方法の習得。	コンテストの評価方法	放送技術の実践的指導方法とコンテスト対策。	コンテストの評価方法
	講師職氏名	高文連専門部 役員	高文連専門部 役員	NHK専門 職他	高文連専門部 役員	NHK専門 職他
	研究発表 テーマ・職・氏名					
参加者数	10人	10人	15人	10人	15人	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	②指導法 ⑦実習・講習	②指導法 ⑦実習・講習	①専門分野	①専門分野	②指導法 ⑦実習・講習	
研究調査	主要テーマ					
	調査の期日 場所・参加者数					
購入図書	図書名数	日本語アクセント辞典¥5,400 × 5冊				
研究物出版	名称	「視聴覚教育研究」				
	主内容	実践研究報告 平成29年度のコンテスト結果と事業報告 視聴覚部会規約・高等学校教育研究会規約				
	冊数	100冊				

高教研定通部会 平成28年度事業報告書

部長 萩野 俊哉

研究会・講習会等の開催	目的	未来に向かって生徒の可能性を拓く定時制・通信制教育の推進	
	期日	平成28年7月26日(火)	平成28年11月8日(火)
	場所	NSG学生総合プラザSTEP	長岡明德高等学校
	研究会名称	平成28年度新潟県高等学校定時制・通信制教育総合研究会 新潟県高等学校通信制教育研究会	平成28年度新潟県高等学校定時制・通信制教育研究協議会 各校情報交換会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未来に向かって生徒の可能性を拓く定時制・通信制教育の推進～情熱と使命感あふれる教育活動の創造～ 「I believe 信じる未来へ～不登校から定時制高校(明鏡高校)そして、今～」	県内 定時制・通信制高等学校情報交換会
	講師職氏名	株式会社リクルートマーケティングパートナーズ まなび事業本部 教育機関広報統括部営業2部 東北グループ 山本 一輝	
	研究発表 テーマ・職・氏名	① 学習指導「家庭科におけるキャリア教育の効果的な指導について～人間生活全体を視野に入れた生活キャリアの視点から～」 荒川高等学校 教諭 倉内 有実 ② 生徒指導「本校の生徒指導の現状と課題～特別な支援を必要とする生徒への具体的取り組み～」 出雲崎高等学校 教諭 高澤 亮太 ③ 特別支援教育「文部科学省事業『高等学校における個々の能力・才能を伸ばす特別支援教育』の実践について」 新潟市立明鏡高等学校 教諭 松浦 洋好	① 定時教務 ② 通信制教務 ③ 生徒指導・特別支援教育 ④ 進路指導
参加者数	154人(高校教員等149人, 県教委4人, 講師1人)	49人	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	③ ④ ②	① ⑥	
調査研究	主要テーマ	先進校視察(教育課程、生徒指導、特別支援教育など)	
	調査の期日 場所・参加者数	平成28年11月10日(木)、11日(金)	参加者 3名 視察校 山形県立霞城学園高等学校、仙台市立仙台大志高等学校
購入書	図書名数		
刊行研究成果出版	名称	実践集録 54号	
	主要内容	上記定時制・通信制教育総合研究会等の報告	
	冊数	380冊	

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研定通部会 平成29年度事業計画（案）

部長 萩野俊哉

研究会・講習会等の開催	目的	未来に向かって生徒の可能性を拓く定時制・通信制教育の推進	
	期日	平成29年8月1日（火）	未定
	場所	NSG学生総合プラザSTEP	新潟市立明鏡高等学校
	研究会名称	平成29年度新潟県高等学校定時制・通信制教育総合研究会 新潟県高等学校通信制教育研究会	平成29年度 新潟県高等学校定時制・通信制教育研究協議会 各校情報交換会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未来に向かって生徒の可能性を拓く定時制・通信制教育の推進～情熱と使命感あふれる教育活動の創造～ 「未定」	県内 定時制・通信制高等学校情報交換会
	講師職氏名	新潟青陵大学大学院臨床心理学研究科 准教授 佐藤 亨	
	研究発表 テーマ・職・氏名	① 学習指導・進路指導 ② 生徒指導 ③ 特別支援教育 発表：長岡英智高等学校教諭 佐渡高等学校相川分校教諭 十日町高等学校教諭	未定
	参加者数	160人	50人
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	③④②		①⑥
研究調査	主要テーマ	先進校視察（教育課程、生徒指導、特別支援教育など）	
	調査の期日 場所・参加者数	未定	
図書購入	図書名数		
刊行研究成果出版	名称	実践集録 55号	
	主内容	上記定時制・通信制教育総合研究会報告	
	冊数	380冊	

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

平成 28 年度 新潟県高等学校教育研究会理事会議事録

日時 平成 28 年 5 月 11 日（水）13:30～15:00

会場 新潟南高等学校 視聴覚室

開会 吉田 保夫（新潟南高等学校副校長）

1 会長挨拶 青山 一春 会長（新潟南高等学校長）

まず、先月発生した熊本地震でお亡くなりになられました方々のご冥福と被災された方々の復興を心からお祈りしたい。新聞報道によると、熊本地震で休校していた熊本県内の公立小中学校が、この連休明けから全て授業を再開するとのことである。しかし、現在 100 校以上で体育館や教室が避難所となっている状況である。一刻も早く各学校の教育活動が全面再開されることを願っている。

会に先立ち「今年度の方針」と「魅力ある高教研・部会活動」についてお話したい。まず「今年度の方針」についてである。今春卒業した平成 25 年度入学生は、全ての教科・科目が現行学習指導要領に基づく教育課程を全うし巣立っていった。当然ながら、今年度の大学入試は、全ての教科・科目で現行学習指導要領に則ったものであった。学習指導要領の平成 21 年改訂は、教育基本法改正、学校教育法改正が行われ、知・徳・体のバランスとともに「基礎的な知識及び技能」「これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力」及び「主体的に学習に取り組む態度」を重視し、知識基盤社会の時代において、「ゆとり」か「詰め込みか」の二項対立として捉えるのではなく、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」のバランスのとれた「生きる力」をより効果的に育成していくことを目指しているものである。はたして、今春の卒業生、新課程第 1 期生に、バランスのとれた「生きる力」を身につけさせることができたのか。各校では、分析、評価のうえ教育課程の見直しの検討をはじめていることと思う。現行学習指導要領に基づく高校教育は、これからが正念場であるといえる。従って、現行学習指導要領の趣旨を踏まえ、今年度も引き続き次の 2 点を会の方針として教育研究活動を行いたいと考えている。

1 全ての生徒が共通に身に付けるべき資質・能力の育成＜共通性の確保＞

2 多様な学習ニーズへのきめ細やかな対応＜多様化への対応＞

各部会においては、引き続き「習得・活用・探究」という学習過程の中で、グループで話し合い発表し合うなどの言語活動や、他者、社会、自然・環境と直接的に関わる体験活動等を重視した教育研究をお願いしたい。

一方で、次期学習指導要領の改訂作業が進んでおり、昨年 8 月には、新しい学習指導要領等が目指す姿や各学校段階・各教科等における改訂の具体的な方向性等を示す教育課程企画特別部会の「論点整理」が出された。そこでは、「社会に開かれた教育課程」、「育成すべき資質・能力の明確化」、学習指導要領等に基づきどのような教育課程を編成し、実施・評価し改善していくかという「カリキュラムマネジメント」の確立、児童生徒の自信を育

み、必要な能力を身に付けていくための「アクティブラーニング」の充実などについて論じられており、これらについても、各部会において、先行して取り組む課題であると思っている。協力をお願いしたい。

次に「魅力ある高教研・部会活動」についてである。昨年12月に、このことに関するアンケートを実施した。各部長様にはご協力いただいたこと、この場をお借りし感謝申し上げます。このアンケート結果並びに「魅力ある高教研・部会活動」に関する活性化策について、後ほど事務局から説明させていただくので、ご審議の程宜しくをお願いしたい。各部会におかれましては、より一層部会運営に工夫改善をいただき、「魅力ある高教研・部会活動」が、ひいては会員増にも繋がるようお願いする。

最後に、高教研の活動が各学校の活性化、授業改善に結びつき、新潟県の生徒のためになることを祈念し、開会の挨拶とさせていただきます。

議員数 80 名（二つ以上兼ねている方もいるため実数 67 名） 出席 33 名 委任状 32 名、構成員の 2 分の 1 以上の出席で成立するという規約第 14 条により本会の成立を確認。

2 議長選出 慣例により、青山 一春 会長を議長に選出

3 議事

① 平成 27 年度授業報告 釜田 浩文 幹事（新潟商業高等学校）

理事会資料 2 ページ参照

理事会資料 2 ページの訂正

「2 テーマ別集計結果」の「研究発表」について、25 年度を 26 年度へ、26 年度を 27 年度へと訂正。

各部会の目的については、若干の細かい言い回しの変更はあるが、大きく目的が変わる部会はなかった。各部会ともそれぞれの目的に向けて、事業が行われた。

研究会・研究発表の実施数については、27 年度の研究会は合計で 54 回実施されたが、これまで最も実施数の多かった平成 26 年度の 59 回という数を下回る結果となった。テーマ別に見ると、指導法についての研究会テーマが前年に比べ多くなり、各部会ともその内容に工夫を凝らしているようだ。

研究発表数については、54 組の発表が行われており、26 年度とさほど変わらない。指導法に関する研究発表が大幅に増えている一方、実習・講習・展示の数が 0 になっているが、この 2 つに関してはどちらにカウントすべきか迷う発表が多く、このような表記となった。内容に関しては高教研のウェブページでご覧いただきたい。

研究会への参加者及び発表者の変化については、前年度平成 26 年度の 2099 名に対して、昨年平成 27 年度は 1978 名となり、若干の減少が見られた。

以上、研究発表・参加人数ともに 26 年度と比べ若干の減少が見られたが、ほぼ同じ水準で事業が行われた。

－質問・意見なし、①平成 27 年度事業報告について、承認－

② 平成 27 年度の活動から 釜田 浩文 幹事（新潟商業高等学校）

理事会資料 3 ページ「平成 27 年度 活動から」参照。

研究会については、先ほどの「平成 27 年度事業報告」のとおりである。

研究助成に関しては、ここ数年来の会員数の減少に伴う会費収入の減少は続き、予算面で厳しい状況が続いている。このような状況の中で、新潟県教職員厚生財団、及び日本教育公務員弘済会新潟支部からご支援をいただいている。

会の運営については、平成 26 年に開設した高教研のホームページに、各部会の情報について各部会の幹事の先生方より適宜アップロードしていただいている。これにより、全国に活動状況を発信することが可能になり、これまで以上の活性化、交流が期待できると考えられる。

経費の節減対策だが、可能な限りペーパーレスを実施し、先ほどのホームページからの様式のダウンロード、メールでの送信等で文書の発送や閲覧を行っている。これにより、昨年度は約 28 万円の経費を削減することができた。

会の活性化対策については、12 月に各部長宛に魅力ある高教研にするためのアンケートを実施した。後ほど、議事 5 番目の「会の活性化について」で話があるので、そこで活発な議論をお願いしたい。

以上、各部会におかれても、引き続き研究会への参加、未加入の先生方への新規加入を積極的に呼びかけていただきたい。

－質問・意見なし、②平成 27 年度の活動からについて、承認－

③ 平成 27 年度の決算報告 小林 信子 幹事（新潟南高等学校）

理事会資料 4、5 ページ「平成 27 年度 収支決算書」参照。

〈収入の部〉

27 年度は、昨年 5 月 13 日現在の会員数 1933 人で予算を組んだところ、その後に追加加入があり、最終会員数は 66 人多い 1999 人となり、会費の総額は 132,000 円増となった。例年通り、県教職員厚生財団と教育公務員弘済会より助成金を合わせて 600,000 円いただき、さらに 26 年度よりの繰越金などを合わせて、収入の合計額は 5,107,027 円となった。

〈支出の部〉

比較増減の欄について、残金の出た部会には返金をしていただいた。Ⅱの費目別の欄の「1.研究大会費」の欄の「謝金」だが、27 年度は前年に比べ少なくなっていた。代わりに今まであまり支出が多くなかった、研究図書購入費や資料費などが多くなった。多くの部会で会議費を大幅に抑えてくださり、経費を切り詰めてくださったことが覗える。

「6.本部関係費」については 26 年度同様、経費節減につとめた。封筒などの消耗品や事

務用品、振込み手数料、振込み用紙の料金なども過去のもので何とか足りていたため、かなり出費を抑えることができた。しかし、28年度は不足した分の補充の必要もあるため、事務費全般が増えると思われる。

収入決算額より支出決算額を引き、650,360円が次年度繰越となった。

ちなみに26年度の繰越金は508,829円で、27年度は会員の皆様に会員の加入促進にもご尽力いただき、おかげさまでこのご報告をすることができた。この後、会員数がどのように推移するのかを見ながら、予算配分を考えていかなければならない。

小林 皇司 会計監査委員（新潟南高等学校）より、執行状況も適正であると報告。
理事会資料6ページ「会計監査報告書」参照。

－質問・意見なし、③平成27年度決算報告について、承認－

④ 平成28年度役員の交替・補充について 高山 誠 幹事（新潟南高等学校）

理事会資料7ページ「平成28年度 高等学校教育研究会役員（案）」参照。

本年度は、役員改選の年である。各部長から推薦された役員案を掲載した。規約第23条により、重任を妨げるものではない。

－質問・意見なし、④平成28年度役員の交替・補充について、承認－

⑤ 高教研の活性化について 伊皆 嘉樹 幹事（新潟南高等学校）

理事会資料8、9ページ「高教研活性化に向けた対応について（事務局案）」を参照。

この件に関しては、昨年度から検討を重ねてきた。昨年度1月にアンケートを実施した。協力をいただき、感謝している。「1.アンケート結果」について、「著名な講師を招聘する」が最も多くなっている。アンケート結果詳細は別紙1を参照していただきたい。

集計結果を基に、事務局案として検討を重ねてきた。その結果として8ページ「2.対応『(1)「各部会の繰越金を専門部毎に積み立て、活性化対策費に充てる。』」を事務局案として提案する。これまでは、繰越金を一括事務局に戻し、それらをまとめて次年度の部会費等に充てていたが、これを部会単位で部の垣根を保ったまま複数年積み立てる形としたい。

この案とした理由は3点ある。「2(2)事務局案の考え方」について、1つ目は、積み立てや執行計画が部会内で完結することから、部会運営の自主性を保つことができるということである。2つ目は、部会の特性に配慮した柔軟な事業展開が可能であるということである。例えば、部によっては小額を積み立てて、隔年で事業を実施したい部会もあれば、もう少し長いスパンで積み立てて大きな事業をしたい部会などの要望に柔軟に対応できる。3つ目は、ある年度の運営上の工夫や努力が、その専門部の次年度の充実に直結することから、さらなる工夫や努力を促す効果が期待されるということである。

「3.試算」について、仮にある年度12,000円ほどの積立金が出れば、3年では36,000

円という額を蓄えることができ、これでまとまった事業展開が可能である。

9 ページの「4.留意点」について、複数年度積み立てることになれば、会計の透明性を確保する必要がある。事務局がお金の出入りを一括管理し、毎年理事会にて報告するなどの対応が必要である。

「5.参考」については、今現在の予算配分方法について紹介させていただいた。

青山 一春 会長（新潟南高等学校長）

この事務局案については事前に各部会長へ送っている。アンケートでは、1 番多い意見に「著名な講師を招聘する」という多くの費用がかかる内容が挙げられている。2 番目、3 番目の意見は、どちらかといえばお金はかけずに工夫する内容が挙げられている。どのようにお金を工面するかということについて、部会の中で様々な案を立ててみた。例えば、部会毎にローテーションをするなどの案が出た。しかし、各部会にそれぞれ事情があると思う。よって、事務局案のように各部会の自主性が保たれるような形にし、お金を数年かけて貯め、独自の活動をしていただくことも可能となるようにしたい。例えば、2 年後に招聘する講師を決め、それまでの 2 年間に十分周知をし、会員を増やすなどの方策も考えられる。何か意見がありましたら、お願いしたい。

青山 一春 会長（新潟南高等学校長）

理科部会様は、物・化・生・地とあるが、問題などはないか。

高倉 聡 理科部会長（新井高等学校長）

特に問題はない。このようにしてもらえば、何か新たな計画をしやすいのではないか。ぜひこのようにしていただきたい。

青山 一春 会長（新潟南高等学校長）

工業部会様は、何か不都合な点などはないか。

安達 弘哉 工業部会長（長岡工業高等学校長）

工業部会としては、特に大きな支障はない。こうしてもらえると、各部会である程度お金をまとめて、県外の良いところの視察などもできるようになるのではないかと考えている。このように方策が増えるので、賛成させていただきたい。

繰り越したいという時には、会計的には、請求額を少なくすれば事務局のほうで自動的にプールをしてくれるということか。

青山 一春 会長（新潟南高等学校長）

会計的には、基本的に余ったものを、その余らせた部会に翌年きちんと保証するという形で積み立てていく。

安達 弘哉 工業部会長（長岡工業高等学校長）

そういう保証という形の積み立てということか。

青山 一春 会長（新潟南高等学校長）

そうである。

安達 弘哉 工業部会長（長岡工業高等学校長）

各部会の会計が個人で持っているということではないということか。

青山 一春 会長（新潟南高等学校長）

そうである。事務局のほうで年度末に完全に引き上げさせてもらい、その代わりにいくら余っているのかについては全て事務局で管理をする。また翌年、それを配分してもよいし、3年間積み立てるということでもよい。積み立てるということになれば、各部会で積み立てをしっかりと確認しながら活動していただき、2年目にその倍くらいを事務局へ返していただき、その際には摘要欄などに「3年後の〇〇のために」というような一言があれば、はつきりするだろう。

青山 一春 会長（新潟南高等学校長）

他に意見はあるか。特に、こういった点で支障があるということはないか。

南雲 充 芸術部会長（柏崎常盤高等学校長）

芸術部会では、3年に1度くらい講師を招聘して講演会を行うために、1人500円ずつ集めている。今までは、それを費用に充てて講演会を開いていた。今回の事務局案で出た、プールをしたり返却したお金と合わせてその集めた500円を使用してもよいか。

青山 一春 会長（新潟南高等学校長）

基本的には、高教研の会計は会計として独立している。500円問題については、そちらで問題が生じないように管理していただきたい。

南雲 充 芸術部会長（柏崎常盤高等学校長）

（部会内で集めた500円は）プールしないほうがよいということか。

青山 一春 会長（新潟南高等学校長）

公費と私費の混同という問題にもなってくると思われるので、そこは分けておかなければならないだろう。ちなみに、音楽系と美術系のそれぞれ2つでということか。

南雲 充 芸術部会長（柏崎常盤高等学校長）

そうではない。芸術として、その年は音楽系、次の3年後は美術系ということになる。

青山 一春 会長（新潟南高等学校長）

またこういった意見をいただきながら、詳細についてはこれから詰めていきたい。

他に意見があればお願いしたい。

小野島 恵次 副会長（高田高等学校長）

基本的にプールをして運用していくことについて異論はない。

抜本的に各部会で考える必要があるのは、決算書や予算書を見てわかるように、ほとんどが研究をまとめた冊子を作るため（研究成果刊行費）に使われ、その他は研究大会費となっている。こういう時代だからなくすというわけにはいかないと思うが、その成果物を印刷するお金に多くの費用がかけられているということは各部会で考え直していかなければならない。

それから気になることは、調査研究にほとんどお金が使われていないことである。研究会といいながら、研究をしていることになっているのだろうか。個人の先生が個人的に研究したものをただ全体に発表している、という言い過ぎかもしれないが、その中身については各部会でもう少し検討してみる必要があるのではないか。

前任の立場から申し上げますと、教育センターに指導講評の依頼をいただくときは、原則的には高教研の場合には、旅費は負担をしていただくという立場をとっている。これは、中教研なり小教研なり、義務のほうではそういう線引きをしているから、高校だけは別というわけにはいきにくい。原則的として、教育センターの指導主事の派遣を依頼した場合は、それぞれの部会で旅費を支払うということになる。ただ、高校の場合では過去の例からして、教育委員会の指導という側面もある。だから派遣依頼をされるときに、実践発表に対しての指導講評ということではなく、教育委員会指導として派遣依頼をいただくと、例えば教育センターの指導主事、一義的には本庁の指導主事にご依頼いただくべきところだろうけれども、それは教育センターの旅費で支払うということが可能になるのではないだろうか。単なる指導講評ではなく、教育委員会としての指導という形で要請していただくというのではないだろうか。

また会員数の増加というのは、かねてから懸案であるということは承知しているが、やはり、一番ネックとなっているのは、平日に研究会を開催されると、複数の会員がいる教科によっては、一斉に全員が学校を離れることになるため大会に出られないという実態がある。そうすると、会員になっていて本当にメリットがあるのかという話になる。そこが痛し痒しのところで、ずっと懸案事項としてあったのではないだろうか。そこをどのように考えるのか、各部会で考えるべきことではある。例えば、土曜日を使ってできるだけ多くの先生方が参加できるような形にするのか、あるいはそうでないのか。あるいは開催の時期を長期休業中にするのか、などの工夫をすることによって多くの人が参加可能となる

のではないだろうか。

青山 一春 会長（新潟南高等学校長）

1点目の印刷費、2点目の調査研究費については、各部会で考えていただきたい。3点目の教育センター指導主事等への依頼で旅費の負担が発生するという点について、指導第一係の灰野係長に、総務課と相談をして回答を下さるように依頼してある。先ほどの小中との整合性も含めてご回答いただけるだろう。4点目の、平日の研究会についてだが、地歴公民は巡検などを行っているということだが、それは平日か。

武内 均 地歴公民部会長（豊栄高等学校長）

基本的には平日で、夏休み中心にやっている。

青山 一春 会長（新潟南高等学校長）

夏休みは、研修としてはふさわしいだろう。これについても各部会でまた工夫をしていただきたい。今ほどの、副会長様のご意見含めて、何か意見があればお願いしたい。

石井 充 顧問（新潟高等学校長）

英語部会は土曜日に何かと一緒にやっているようだが、土日にやるというのは、一般の教員の出張を判断する立場上難しいだろう。全部が全部でなくとも、長期休業を上手に使うとよいのではないか。

－他質問・意見なし、⑤高教研の活性化について、承認－

青山 一春 会長（新潟南高等学校長）

この事務局案をもう少し詰めさせていただきながら、具体的な考え方ややり方については、6月の委員会までには整理して明確にしていきたい。

⑥ 平成28年度事業計画案 渡辺 和彦 幹事（新潟高等学校）

理事会資料10ページ「平成28年度授業計画（案）」参照。

2番目の各部会の目的については、昨年度と変更はない。詳細は高教研のホームページ、年報に掲載する。

－質問・意見なし、⑥平成28年度事業計画案について、承認－

⑦ 平成28年度予算案 近 優子 幹事（新潟南高等学校）

理事会資料11ページ「平成28年度 新潟県高等学校教育研究会予算（案）」参照。

5月9日現在の実会員数は1965人であった。現時点での実会員数は、昨年度より32人

多いが、昨年度である平成 27 年度と同様の配分基準で予算を組んだ。配分基準は平成 26 年度から、教科部会では基準額の 120,000 円に 1,150 円×会員数、それ以外の部会は基準額の 120,000 円に 900 円×会委員数となっている。今年度から前年度の残金を各部会の予算に積立金として繰り越すことになったため、支出の部に積み立ての欄を設けた。

平成 27 年度は、国語、地歴公民、数学、理科、英語、保健体育、生徒指導、図書館の 8 部会で残金があり、その合計が 213,079 円となる。この積立金の合計に各部会費の合計 4,632,000 円、事務局関係費 235,415 円、予備費 100,000 円を合計した金額が、5,180,494 円となる。今年度は現時点での実会員数が若干だが増加していることと、平成 27 年度からの繰越金が 141,531 円多い 650,360 円であったことから、このような予算配分となった。しかし、今後の会員数の推移を見ながら次年度以降の予算配分を考えていかなければならない。

大田 英則 農業部会副部長（新発田農業高等学校長）

27 年度に返還した分を、もうすでに 28 年度に積み立てるということか。

青山 一春 会長（新潟南高等学校長）

そうである。

大田 英則 農業部会副部長（新発田農業高等学校長）

28 年度から始まるのではなく、27 年度から始まるということなのか。

青山 一春 会長（新潟南高等学校長）

それも含めて、この案はいかがだろうか。

大田 英則 農業部会副部長（新発田農業高等学校長）

少しおかしいのではないか。

青山 一春 会長（新潟南高等学校長）

この案は先ほどの事務局案が成立したということで、もう 1 つ別の従来とおりの案をつくってはいたが、ここではこれを出ささせていただいた。各部長様には事前に案を示して、特に大きな異議はなかったため、このような案を出ささせていただいた。

武内 均 地歴公民部会長（豊栄高等学校長）

原案に賛成である。

石井 充 顧問（新潟高等学校長）

良い方法ということで、先ほど皆さんは了解されたわけだが、残してよいのであれば使

わないでおいたのにとという考えもあるのかもしれない。

上杉 肇 数学部会長（三条高等学校長）

数学部会が 50,000 円残したことに關しては、節約につとめてこういう結果になったのであり、意図的なものではない。そして、早く積立金を立てていただければ、呼びたい講師の方を早く招聘できるため、原案に賛成である。

青山 一春 会長（新潟南高等学校長）

大幅に削減した工夫には何があるのか。

上杉 肇 数学部会長（三条高校長）

なるべく学校のセミナーハウスなどを借りて、会場費を節約した。また、なるべく安い講師の方、無料で呼べる講師を呼ぶなどの工夫をした。

桑原 弘秀 数学部会副部長（新潟東高等学校長）

この積み立て方式にする話が出たのはいつのことか。

青山 一春 会長（新潟南高等学校長）

アンケートをとって、それから事務局で 4 パターンほど案を考えたのは、年度末に近い頃であった。

桑原 弘秀 数学部会副部長（新潟東高等学校長）

部会毎によってそれぞれ会員がお金を出してやっているものだから、当然事務局の意見や考えをもっと周知しないと、お金を出している各会員が戸惑うだろう。私は 1 年おいてほしいということではないが、ゼロにしてからスタートというのも少しどうかと思い、また今後スタートしてから工夫していくということで、賛成である。しかし、一人一人の会員の意見を部会で聞くなどやり方としては時間をかけなければならないだろう。

青山 一春 会長（新潟南高等学校長）

会員は減であるが、会費は増やさないという議論は、数年に渡り続けてきた。積極的に活動してくださっている会員の皆様にはその点については理解していただいていると考えている。進め方も工夫の余地があったと感じているが、部会長様方から会員の皆様にこの趣旨を説明していただいた上で、今年度からスタートさせていただけないだろうか。

大田 英則 農業部会副部長（新発田農業高等学校長）

今年度からというのは、今年度からこの方式をスタートして、今年度残った分は来年度へ積み立てていくというふうに私は理解していたので、それが昨年度のものからすでに積

み立てが始まるのが私には理解できないと申し上げただけである。この方式自体は、良い方式で、ありがたいことだと思っている。

青山 一春 会長（新潟南高等学校長）

事務局は今回のことを今後に生かして、この件に関してだけでなく様々な改革をしていく必要があると感じている。これからも部会運営に資するように進めていく。今回はこれでスタートさせていただきたい。

－⑦平成 28 年度予算案について、承認－

⑧ その他

石井 充 顧問（新潟高等学校長）

理事会資料 2 ページのところ、指導方法に関する研究会や研究発表が大幅に増えて、専門分野のところが減ったと説明があったが、年報でどのようなところが指導法になったのかというような指摘をしていただけるとよい。指導法が 0 から 10 になったのは、例えばどこなのか。

釜田 浩文 幹事（新潟商業高等学校）

指導方法にカウントしたものは、例えば国語部会の 10 月 29 日に行われた全県研究協議会である。これは「思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業改善について」というテーマだったので、指導方法にカウントした。他には、数学では 11 月 2 日に行われた新潟地区の「教科における中高の指導法について」というテーマで、テーマ自体に「指導法について」という文言があったので、はっきりと指導法にカウントできた。テーマによっては専門分野にカウントするか、指導法にカウントするか非常に迷うところがあった。

青山 一春 会長（新潟南高等学校長）

このことについては事務局で取りまとめるときに、各部会に確認するなどの工夫をさせていただきたい。

4 部会報告 「平成 27 年度高教研部会取組状況」

芸術部会 南雲 充 芸術部会長（柏崎常盤高等学校長）

芸術部会は、以前は音楽、美術・工芸、書道と分かれていたが、一つにまとめられて昨年度は 4 年目となった。

昨年度の実施事業として、役員会議を 6 月 19 日と 12 月 11 日に行なった。全県研究協議会は 6 月 19 日にアトリウム長岡で実施した。会員 77 名のうち 38 名が参加した。総会、分科会、その後小熊直子県立教育センター指導主事から、「主体的に取り組む学習者を育てる授業方法と学習成果の評価について」という題目で指導していただいた。講演については 3

年に一度著名な方を呼んでいるのだが、昨年度は、前長岡造形大学理事長の豊口協先生を招き、「時代は大きく動いている～造形教育について～」と題する講演をしていただいた。豊口先生が東京造形大学教授から学長になるにあたり葛藤を抱いた話、その後長岡造形大学の設立に携わった話など印象深い内容の講演であった。講演謝礼は10万円だった。

公開授業参観は、10月21日に小千谷高等学校で行なった。文部科学省指定研究事業・高等学校における「多様な学習成果の評価手法に関する研究」に係る公開授業に芸術科も参加した。授業後、高教研芸術部会研究協議会を開催し、高等学校教育課の山下幸治指導主事より「思考力・判断力・表現力の育成と学習評価の在り方について」指導をいただいた。

その他の事業としては部会誌の刊行があった。

特色ある取り組み・事業としては、3年に一度実施する講演会が特色である。また、芸術部会は3分野それぞれ特色ある研究を行なっている。音楽分野では、2月3日に新潟中央高校でロシアンメソッドピアノレッスンを行なった。美術・工芸分野では、8月17日に県立近代美術館で鑑賞教育について研修会を行なった。そして11月12日に妙高市立新井中学校で造形教育について研修会を行なった。書道分野では、12月2日に県立教育センターで書道科研修会を行なった。

今後の展望と課題として、会員数の増加が挙げられる。また会員になっていても、音楽コンクールなどの参加で都合がつかず、研修会に参加できない方もいる。今後は研修会の日程を工夫したい。

水産部会 久保田 郁夫 水産部会長（海洋高等学校長）

本日配布した『高教研年報』21ページに部会の報告、58ページ、59ページに事業報告書と計画書が載っている。

昨年度は、学校の存在意義についてしっかり考えようと職員と接してきた。地域に貢献する人材育成を念頭に、実践重視で部会を運営している。研究協議会は12月3日に海洋高校で実施した。今回は私が全水研などで発表した内容をもとに、学校のビジョン、存在理由を述べた。講評は当時の高田農業高校の高橋哲也校長よりいただいた。また職員による発表は「HACCP 責任者養成研修に参加して」という内容で行なった。全水研発表報告では、矢口教諭による報告がなされた。情報教育を取り入れようということで、ホームページを工夫して新しく立ち上げる予定だ。

本校は、国の地方創生加速化交付金をいただいて、地域（糸魚川、新潟県）のブランド化に取り組んでいる。チョウザメ、ギンザケの養殖、天然アユの再生、八景島シーパラダイスや日本水産との連携も考えている。一連の活動は職員の意識向上および実践力向上に役立った。

今後は実習船の建造を計画している。熊本県の地震では、熊本県の高校や宮古水産高校の実習船が支援物資の運搬に役立った。本校の実習船も災害時での活用を考えていきたい。

保健体育部会 山田 学 保健体育部会長（有恒高等学校長）

諸会議については、理事・役員会を7月にじょいあす新潟会館、1月に長岡向陵高校で実施した。

全県養護教諭研修会は、10月20日にじょいあす新潟会館で実施した。95名が参加した。研究会のテーマは「養護教諭の行う健康相談における省察の効果」で、上越教育大学大学院学校教育研究科准教授の留目宏美先生を講師として迎えた。

全県研究会は、11月26日に十日町高校で実施した。研究授業は十日町高校の関井徹教諭から体づくりの実践発表をしていただいた。十日町高校は、冬でも体育は半袖で、生徒は十高体操をしながら自主的、積極的に体づくりに励んでいた。アクティブラーニングと言ってよいような内容の授業であった。

講演会は、近整形クリニックの近良明先生より、「学校体育活動における障害の発生とその予防」をテーマに講演をしていただいた。近先生は医師の観点からスポーツ障害の予防法について語ってくれた。近先生には夜の会にも参加していただき、体づくりの大切さをさらに語っていただいた。

部会誌の刊行について、保健体育部会では経費節約のため昨年度よりホームページに掲載する形をとっている。

保健体育部会を魅力ある部会にするため、全県研究会の開催時期など工夫して多くの先生方に参加していただきたい。また新学習指導要領になったので、格技とダンスの研修に力を入れたい。特にダンスについては、講師を招き講習会を開くことを考えている。男性教諭にはふるって参加していただきたい。

5 事務連絡 理事会資料 12 ページ参照

6 閉会挨拶 藤井 人志 副会長 (新発田高等学校長)

本日は慎重審議ありがとうございました。また昨年度1月に実施した新しい動きに向かったアンケートもありがとうございました。

本日は芸術部会の南雲部長様、水産部会の久保田部長様、保健体育部会の山田部長様から各部会の取組み状況の報告をいただいた。各部会、各学校で参考になる事案もあったかと思う。各学校で取り組んでいただきたい。

本日の審議の中で新しい予算組みが決まった。各部会の裁量が大きくなったので、部会を活性化していただきたい。

新発田高校ではこの春若い先生方が多く来た。どの先生方も意欲があるのだが、忙しく校内での研修の機会が十分に取れない。ぜひ高教研が指導する機会を与えて欲しい。

アクティブラーニング、ICTの活用などをテーマとして取り入れて欲しいという声が寄せられている。各部会で積極的に取り組んでいただきたい。

高教研の最終的な目標は、先生方の授業力を高めて、子供たちに還元していくことだ。それに向けて新しい教育課題に取り組んでいただきたい。そして若い先生方が参加してためになるような高教研を作り上げていただきたい。

平成 28 年度 活動から

1 研究会等

今年度も各部会の精力的な努力によって各種の研究会（講習会・見学会・展示会等）が開催されました。各部会の事業報告書を見ると、学習指導関連では「アクティブラーニング」「主体的な学び」「学び合い」「ファシリテーション」等のワードが時代の空気を感じさせます。講演会では、大学教授を軸としながら、地域の人材を積極的に活用している点が印象に残りました。実習・見学では、県内外の様々な場所に足を運んでおり、産業の現場等、校外の空気を積極的に教室へ導こうとする姿勢を感じさせます。詳細については一覧をご覧ください。

2 教育研究助成について

ここ数年来の会員数の減少に伴う会費収入の減少は続き、予算面で厳しい状況が続いています。このような状況の中で、財団法人新潟県教職員厚生財団様、及び公益財団法人日本教育公務員弘済会新潟支部様からご支援をいただき、本会の運営にあたっています。紙面を借りて改めて感謝申し上げます。

3 会の運営について

(1) 高教研ホームページについて

平成 26 年 8 月に開設した高教研ホームページですが、各部会から積極的に御活用いただいております。情報発信や会員間の連絡に大いに役立っております。今後も有効に活用くださるようお願いします。

新潟県高等学校教育研究会ホームページ <http://www.kokyoken.nein.ed.jp/>

(2) 経費節減について

事務局からの発送文書について、可能な限りメールやホームページでの閲覧や様式ダウンロード形式としました。これにより経費を大幅に削減することができています。今後も事務経費削減と部会活動費の充実に向けて改善に取り組んでまいります。

4 高教研の活性化について

本会の会員数は平成元年の 4,035 人をピークに年々減少し、ここ数年は会員数 2,000 人前後で推移しております。高教研の魅力を高め、一層の会員募集につなげていくことは、数年来の課題として議論を深めて参りましたが、今年度、会計制度の「積み立て方式」として具体化いたしました。実際に効果を発揮するまで数年かかるものと思われませんが、今後、各部会の取組が一層活性化することが期待されます。制度の詳細や検討の過程は平成 28 年度理事会記録を御覧ください。

各部会におかれましては、引き続き研究会等への参加を契機に未加入の先生方、特に新採用の先生方へ積極的にお声がけをいただきますようお願いいたします。

(文責・幹事：県立新潟南高等学校 教頭 伊皆 嘉樹)

平成18年度以降予備費からの各種 大会への出資状況

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	計	
	国語	地歴公民	数 学	理 科	芸 術	英 語	農 業	工 業	商 業	水 産	家庭科	保健体育	生徒指導	図書館	視聴覚	定 通		
H18	理科 北信越大会			20000													20000	
H19	工業 関東甲信越地区大会							20000									40000	
	数学 北陸四県数学研究会		20000															
H21	工業 北信越大会							20000									40000	
	生徒指導 講師謝礼の補助											20000						
H22	美・工、書全国大会				30000												30000	
H23	無し																0	
H24	英語 スピーチコンテスト関係旅費補助					30000											30000	
H25	英語スピーチコンテスト関係旅費補助					40000											70000	
	工業北信越工業化学教育研究大会補助							30000										
H26	工業北信越工業化学教育研究大会補助							20000									20000	
H27	無し																0	
H28	工業北信越工業化学教育研究大会補助							30000									30000	
		0	0	20000	20000	30000	70000	0	120000	0	0	0	0	20000	0	0	0	280000

平成28年度 収支決算書

収入の部

区 分	予 算 額(a)	決 算 額(b)	比 較 増 減(b-a)	摘 要
会 費	3,930,000	3,948,000	18,000	年額一人2,000円×1974 人(予算作成時までの会員数1965人。9 人増)
助 成 金	600,000	600,000	0	県教職員厚生財団・教育公務員弘済会より
雑 収 入	134	15	△ 119	利子
繰 越 金	650,360	650,360	0	平成27年度より(各部の残金次年度積立金も含む)
合 計	5,180,494	5,198,375	17,881	

支出の部

I 部会別

区 分	予 算 額(a) (積立金を含む)	決 算 額(b)	比 較 増 減(b-a)	昨年度より積立 (参考)	摘 要				
					研究大会	研究調査	研究図書	研究成果刊行	その他
1. 国 語	328,129	309,120	△ 19,009	12, 129	79,120	0	0	230,000	0
2. 地歴公民	338,481	338,481	0	16, 481	238,689	0	0	99,792	0
3. 数 学	497,460	381,511	△ 115,949	50, 460	336,311	0	0	45,200	0
4. 理 科	436,334	366,619	△ 69,715	20, 334	134,619	0	0	232,000	0
5. 芸 術	203,000	100,160	△ 102,840	0	40,868	0	0	59,292	0
6. 英 語	478,964	289,465	△ 189,499	964	167,475	0	0	101,990	20,000
8. 農 業	290,000	290,000	0	0	161,000	0	0	129,000	0
9. 工 業	293,000	262,233	△ 30,767	0	172,233	0	0	90,000	0
10.商 業	249,000	249,000	0	0	100,000	0	0	149,000	0
11.水 産	159,000	153,105	△ 5,895	0	59,285	0	90,590	3,230	0
12.家 庭 科	267,000	227,489	△ 39,511	0	107,489	0	0	120,000	0
13.保健体育	291,979	207,527	△ 84,452	44, 979	207,527	0	0	0	0
14.生徒指導	397,455	288,621	△ 108,834	62, 455	119,389	13,712	0	155,520	0
15.図 書 館	184,277	158,710	△ 25,567	5, 277	83,534	0	0	75,600	△ 424
16.視 聴 覚	146,000	146,000	0	0	65,000	0	27,000	54,000	0
17.定 通	285,000	285,000	0	0	110,228	28,486	0	146,286	0
本部関係	235,415	118,480	△ 116,935						
予備費	100,000	30,000	△ 70,000						
合 計	5,180,494	4,201,521	△ 978,973		2,182,767	42,198	117,590	1,690,910	19,576

Ⅱ 費目別

区分	予算額(a)	決算額(b)	比較増減(b-a)	摘要
1. 研究大会費	2,483,041	2,182,767	△ 300,274	
謝金	629,919	645,489	15,570	
旅費	420,240	308,523	△ 111,717	
使用料及び貸借料	543,936	501,183	△ 42,753	会場使用料・設備使用料・借りあげバス等
資料費	268,010	229,001	△ 39,009	
通信運搬費	278,936	322,301	43,365	切手, 送料, 手数料等
賃金	140,000	54,000	△ 86,000	テープ起こし
会議費	202,000	122,270	△ 79,730	茶, 茶菓子, 講師弁当等
2. 研究調査費	103,815	42,198	△ 61,617	
資料費	56,315	0	△ 56,315	
通信運搬費	25,000	34,798	9,798	
会議費	22,500	7,400	△ 15,100	
3. 研究図書購入費	117,090	117,590	500	
4. 研究成果刊行費	1,848,946	1,690,910	△ 158,036	
5. その他	292,187	19,576	△ 272,611	
6. 本部関係費	235,415	118,480	△ 116,935	
事務費	205,415	118,480	△ 86,935	通信費
会議費	10,000	0	△ 10,000	
刊行費	20,000	0	△ 20,000	コピー用紙, 製本代
7. 予備費	100,000	30,000	△ 70,000	
合計	5,180,494	4,201,521	△ 978,973	

収入決算額 5,198,375

支出決算額 4,201,521

996,854 (次年度繰り越し)

役員

理事

会 長	青山 一春		新潟南	
副 会 長	上原 洋一	新潟中央	藤井 人志	新発田
	轡田 勝祐	長岡	小野島 恵次	高田
	渡辺 尚人	佐渡		
顧 問	石井 充		新潟	

部 会							
No.	部会名	部長	副部長				
1	国語	中戸 義文 新潟豊	北岸 信治 新潟	富樫 信浩 白根	勝山 宏子 小出	吉井 裕也 安塚	
2	地歴公民	武内 均 豊栄	滝澤 卓 阿賀黎明	岩田 宏樹 村上中等	遠間 春彦 津南中等	平原 孝之 高田南城	
3	数学	上杉 肇 三条	桑原 弘秀 新潟東	竹内 正文 五泉	吉田 弘 分水	鈴木 勇二 八海	石井 一也 柏崎翔洋中等
4	理科	高倉 聡 新井	長谷川 雅一 松代	加藤 徹男 直江津中等	堀 昌明 新潟向陽	岩崎 啓 村上中等	
5	芸術	南雲 充 柏崎常盤	大田 英則 新発田農業	小堺 さとみ 出雲崎			
6	英語	小池 和公 柏崎総合	杉田 勉 万代	山賀 淑雄 高志中等	山川 徹也 羽茂	石橋 弘光 燕中等	渡邊 優子 長岡大手
7	農業	竹内 公英 加茂農林	大田 英則 新発田農業	伊藤 本恵 長岡農業	熊倉 肇 高田農業	佐々木 雅伸 佐渡総合	
8	工業	安達 弘哉 長岡工業	熊谷 秀則 新津工業	大湊 卓郎 新潟県央工業	木村 勉 上越総合技術		
9	商業	内野 信昭 新潟商業	田辺 信男 新発田商業	島峯 勉 長岡商業	山本 久 高田商業		
10	水産	久保田 郁夫 海洋	山口 活水 海洋				
11	家庭	吉原 満 長岡大手	清水 源一 巻総合	島峯 勉 長岡商業	南雲 充 柏崎常盤	佐々木 雅伸 佐渡総合	
12	保健体育	山田 学 有恒	熊倉 肇 高田農業	入澤 享 小千谷西	今西 博一 村松	柴田 圭介 市立明鏡	
13	生徒指導	本田 雄二 巻	今西 博一 村松	太田 洋一 栃尾	熊倉 肇 高田農業	山川 徹也 羽茂	
14	図書館	木村 栄一 塩沢商工	田辺 信男 新発田商業	須藤 良平 糸魚川白嶺	渡邊 尚人 佐渡		
15	視聴覚	須藤 良平 糸魚川白嶺	富樫 信浩 白根	阿部 正一 十日町総合			
16	定通	萩野 俊哉 新潟翠江	佐藤 康広 荒川	蟻塚 孝 長岡明德	柳沢 幸也 高田南城	渡邊 尚人 佐渡	神田 正俊 開志学園

会計監査委員

小林 皇司 新潟商業 斎藤 直人 市立明鏡 竹内 正宏 新潟東

委 員

地区	学番	学校名	委員氏名	人数	地区	学番	学校名	委員氏名	人数	地区	学番	学校名	委員氏名	人数
新 潟	1	新 潟	中川佳代子	55	五泉・新発田	29	荒 川	越 昌 宏	14	柏 崎	62	柏 崎	岡 田 淳	19
	2	新 潟 中 央	丸 山 綾 子	46		30	中 条	江 川 真	8		63	柏 崎 常 盤	奥 田 優	14
	3	新 潟 南	伊 皆 嘉 樹	36		31	阿 賀 野	藤 原 昌 晴	9		64	柏 崎 総 合	五 十 嵐 雅 樹	16
	4	新 潟 江 南	田 邊 薫	19		特7	村上特別支援		0		65	柏 崎 工 業	堀 内 義 博	19
	5	新 潟 西	坂 元 淳 子	16		私12	新発田中央	木 村 英 祐	11		66	出 雲 崎	小 堺 さ と み	9
	6	新 潟 東	竹 内 正 宏	14		私13	開 志 国 際		3		特19	柏崎特別支援		0
	7	新 潟 北	竹 田 直 人	12		中等1	村 上 中 等	岩 崎 啓	17		私14	新潟産大付属	松 井 公 平	7
	8	新 潟 工 業	一 本 鎗 裕	46		32	長 岡	桐 原 宏 史	35		中等2	柏崎翔洋中等	頓 所 裕 史	12
	9	新 潟 商 業	川 上 史 人	29		33	長 岡 大 手	渡 邊 優 子	19		67	高 田	早 川 智	36
	10	新 潟 向 陽	堀 昌 明	11		34	長 岡 向 陵	高 橋 周 之	9			高 田 安 塚 分 校	川 合 克 彦	1
	11	新 潟 翠 江	萱 森 茂 樹	39	35	長 岡 明 徳	村 山 庄 吾	14	68	高 田 北 城	平 野 恵 美 子	20		
	12	巻	笛 木 勉	26	36	長 岡 農 業	木 村 和 史	29	69	高 田 南 城	平 原 孝 之	10		
	13	巻 総 合	遠 宮 武 志	17	37	長 岡 工 業	石 澤 聡	18	70	高 田 農 業	竹 園 克 裕	31		
	14	豊 栄	森 川 幸 彦	8	38	長 岡 商 業	植 木 勲	23	71	上越総合技術	小 林 裕 貴	26		
	15	新 津	小 竹 聖 一	16	39	正 徳 館	藤 田 純 子	5	72	高 田 商 業	須 戸 修	14		
	16	新 津 工 業	住 吉 宏	21	40	栃 尾	佐 藤 綱 雄	13	73	久 比 岐	稲 川 俊 啓	8		
	17	新 津 南	佐 藤 浩	9	41	見 附	遠 山 千 勇	12	74	有 恒	大 國 隆 彦	5		
	18	白 根	百 崎 守	3	特3	長 岡 聾	鈴 木 さ お り	2	75	安 塚	川 合 克 彦	2		
	市1	万 代	石 積 希	12	私9	帝 京 長 岡	小 熊 牧 久	9	76	新 井	内 山 喜 博	17		
	市2	明 鏡	齊 藤 直 人	23	私10	中 越	竹 内 拓	13	77	糸 魚 川	斎 京 四 郎	13		
	市中等1	高 志 中 等	山 田 淳 一	9	私19	長 岡 英 智	岩 下 隆 志	10	78	糸 魚 川 白 嶺	坂 口 和 成	12		
	特1	新 潟 盲		0	42	三 条	石 和 田 弘	26	79	海 洋	山 口 活 水	23		
	特2	新 潟 聾	松 田 奈 実	2	43	三 条 東	伊 藤 大 助	13	中等5	直江津中等	島 津 優 子	10		
	特5	西蒲高等特別支援		0	44	新潟県中央工業	本 宮 信 之	16	特13	高田特別支援		0		
	特15	東新潟特別支援	山 口 八 重	3	45	三 条 商 業	徳 永 和 教	14	特17	上越特別支援		0		
	特16	はまぐみ特別支援		0	46	吉 田	石 黒 浩 司	10	私15	上 越	風 間 和 夫	9		
	私1	新 潟 明 訓	青 山 洋 一	63	47	分 水	島 田 修	8	私16	関 根 学 園	松 嶋 幸 則	12		
	私2	北 越	中 村 誠	24	48	加 茂	石 川 讓 太	8	80	佐 渡	川 上 豪	19		
	私3	新 潟 青 陵	永 井 孝 史	12	49	加 茂 農 林	真 島 徳 衛	46		佐渡相川分校	増 田 て つ 志	6		
	私4	新潟清心女子		0	中等3	燕 中 等	石 橋 弘 光	15	81	羽 茂	羽 豆 拓 夫	9		
	私5	敬 和 学 園		0	特10	月ヶ岡特別支援	塩 谷 知 江 子	1	82	佐 渡 総 合	諸 橋 孝 二	18		
	私6	新 潟 第 一	平 田 龍 彦	65	特18	吉田特別支援		0	中等6	佐 渡 中 等	佐 藤 直 之	16		
私7	東京学館新潟	石 田 光 憲	46	私11	加 茂 暁 星	山 本 泰 裕	13		県立教育センター	鈴 木 正 之	18			
私8	日 本 文 理	渡 辺 弘 一	16	50	小 千 谷	横 堀 正 晴	12		高等学校教育課	灰 野 正 宏	18			
私17	開 志 学 園	神 田 正 俊	5	51	小 千 谷 西	外 山 徹 宏	14		文化行政課	井 上 幸 一 郎	6			
五 泉 ・ 新 発 田	19	五 泉	山 田 喜 昭	11	52	堀 之 内	津 畑 進	14		保健体育課	志 田 哲 也	10		
	20	村 松	櫻 井 麻 利 子	11	53	小 出	中 村 剛	8		県立文書館		0		
	21	阿 賀 黎 明	池 田 匡	13	54	国 際 情 報	関 口 和 之	20		合 計		1974		
	22	新 発 田	増 川 義 行	30	55	六 日 町	小 竹 博 昭	19						
	23	西 新 発 田	渡 邊 孝 弘	5	56	八 海	白 藤 恵 一	9						
	24	新 発 田 南	五 十 嵐 雅 実	24	57	塩 沢 商 工	菊 池 啓 一	15						
		豊 浦 分 校	長 浜 力 也	3	58	十 日 町	保 坂 哲	26						
	25	新 発 田 農 業	村 山 英 司	28		松 之 山 分 校	河 野 理 彦	3						
	26	新 発 田 商 業	渡 辺 昭 彦	20	59	十 日 町 総 合	阿 部 正 一	15						
	27	村 上	渡 邊 治 夫	13	60	川 西	中 原 丈 二	4						
28	村 上 桜ヶ丘	星 達 哉	26	61	松 代	夏 見 康 彦	3							
				中等4	津 南 中 等	内 山 崇	17							

部会幹事および部会員数

No.	部会名	部会幹事		会員数	No.	部会名	部会幹事		会員数
1	国語	吉田 巖	新潟東	170	8	工業	鶴巻 勝弘	長岡工業	150
2	地歴公民	鈴木 健一	村上中等	178	9	商業	釜田 浩文	新潟商業	113
3	数学	田辺 智洋	三条	286	10	水産	金子 義昂	海洋	34
4	理科	近藤 弘志	新井	261	11	家庭	村田 しのぶ	長岡大手	128
5	芸術	土田 利枝子	十日町	72	12	保健体育	小林 浩之	糸魚川白嶺	111
		中條 由美	上越総合技術		13	生徒指導	大野 善	巻	240
		高谷 広子	長岡商業		14	図書館	坂井 寿光	塩沢商工	65
6	英語	荒木 美恵子	長岡	311	15	視聴覚	平倉 政弘	長岡工業	29
7	農業	千葉 哲弥	加茂農林	148	16	定通	萱森 茂樹	新潟翠江	183

事務局幹事

伊皆 嘉樹(新潟南)	渡辺 和彦(新潟)	菅家 茜(新潟中央)
渡邊 尚紀(新潟南)	釜田 浩文(新潟商業)	高山 誠(新潟南)
近 優子(新潟南)	小林 信子(新潟南)	佐藤 博美(新潟南)

新潟県高等学校教育研究会規約

第1章 総 則

- 第 1 条 この会は、新潟県高等学校教育研究会といい、事務局を会長在任校におく。
- 第 2 条 この会は、新潟県の高等学校教育を振興発展させることを目的とする。
- 第 3 条 この会は、前条の目的を達成するために、下記の事業を行う。
1. 高等学校教育に関する調査研究
 2. 研究協議会・講習会・講演会・展覧会等の開催、研究誌・機関紙の発行
 3. 会員の研究に対する援助
 4. その他この会の目的達成に必要な事項

第2章 組 織

- 第 4 条 この会は、新潟県にある高等学校の教職員およびこれに準ずるもので組織し、次の部会をおく。
- | | | |
|------------|--------------|------------|
| 1. 国語部会 | 2. 地理歴史・公民部会 | 3. 数学部会 |
| 4. 理科部会 | 5. 芸術部会 | 6. 英語部会 |
| 7. 農業部会 | 8. 工業部会 | 9. 商業部会 |
| 10. 水産部会 | 11. 家庭科部会 | 12. 保健体育部会 |
| 13. 生徒指導部会 | 14. 図書館部会 | 15. 視聴覚部会 |
| 16. 定通部会 | | |

第3章 機 関

- 第 5 条 この会は、次の機関をおく。
1. 委員会
 2. 理事会
 3. 部長会
 4. 部会委員会
- 第 6 条 委員会は、この会の決定機関であって、次のことを決める。
1. 規約の決定並びに改正に関すること。
 2. 事業計画に関すること。
 3. 予算の決定、決算の承認に関すること。

4. 財産および基金の処分に関すること。
5. 役員の設定に関すること。
6. 他団体への加入脱退に関すること。
7. この会の解散に関すること。
8. その他必要な事項に関すること。

第 7 条 委員会は、委員で構成し、毎年開催する。臨時委員会は、理事会が必要と認めるとき、および半数以上の委員から要求があったとき、会長が招集する。

第 8 条 委員会の議長は、そのつど構成員の中から選出する。

第 9 条 理事会は、この会の執行機関であって、次の任務権限を持つ。

1. 委員会から委任された事項の審議執行に関すること。
2. 委員会に提出する議案に関すること。
3. 緊急事項の処理に関すること。ただし、次の委員会に承認を得なければならない。

第 10 条 理事会は、理事で構成する。理事には、会長・副会長・各部会の部長・副部長および委員会で必要と認めた若干名がなる。

第 11 条 理事会は必要により会長が招集する。

第 12 条 部長会は、連絡機関であって、理事会と各部会および部会相互間の連絡にあたる。

第 13 条 委員会および部長会は、委任状を持参した代理人を認める。理事の代理は認めない。

第 14 条 委員会・理事会・部長会の会議は、構成員の 2 分の 1 以上の出席で成立し、多数で決する。可否同数のときは、議長が決める。

第 15 条 部会委員会は、部長・副部長・部会幹事および校内部会代表をもって構成する。

第 16 条 部会委員会は次の任務権限をもつ。

1. 専門的事項について調査研究する。
2. 専門的事項について委員会に提案する。
3. 専門的事項についての業務を執行する。

第 17 条 部長委員会は、必要に応じ、会長に連絡して、部長が招集する。

第 18 条 部会は、必要により、学科または科目別あるいは地区別に分会を設けることができる。

第 19 条 部会の細則は、各部会ごとに作成して会長に届け、委員会の承認を得るものとする。

第 4 章 役 員

第 20 条 この会には、次の役員をおく。

- | | | | |
|-----------|-------|--------|---------|
| 1. 会長 | 1 名 | 2. 副会長 | 5 名 |
| 3. 部長 | 各 1 名 | 4. 副部長 | 各 4 名以内 |
| 5. 理事 | 若干名 | 6. 委員 | 各校 1 名 |
| 7. 会計監査委員 | 3 名 | 8. 幹事 | 若干名 |

9. 部会幹事 各1名 10. 校内部会代表 各校内の部会各1名
11. 顧問

第21条 役員の任務権限は、次の通りである。

1. 会長は、この会を代表し、会務執行の責任を負う。
2. 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときはその任を行う。
3. 部長は、その部会を代表し、部会の業務を統理する。
4. 副部長は、部長を補佐し、部長事故あるときはその任を行い、各地区別部会との連絡にあたる。
5. 理事は第9条により会務を執行する。ただし理事は委員を兼ねることが出来ない。
6. 委員は、各校内の意見を代表し、第6条によりその任を遂行する。
7. 会計監査委員は、会計を監査し、委員会に報告する。
8. 幹事は、この会の事務を処理する。
9. 部会幹事は、各部会の事務を処理する。
10. 校内部会代表は、各校内部会の事務を処理する。
11. 顧問は、会長の諮問に応ずる。

第22条 役員の選出法は、次の通りとする。

1. 会長・副会長・部長・副部長は、委員会で地区を考慮して会員の中から選挙する。
2. その他の理事は、必要により委員会で選挙する。
3. 委員は、各学校から1名選挙する。
4. 会計監査委員は、委員会で互選する。
5. 幹事は、委員会の承認を経て会長が委嘱する。
6. 部会幹事は、各部会の推薦により、会長が委嘱する。
7. 校内部会代表は、各校内部会で互選する。
8. 顧問は、委員会の推薦を経て会長が委嘱する。

第23条 役員の任期は、2年とし、次期改選まではその任を行い、重任してもよい。

欠員の補充で就任した者の任期は、前任者の残りの期間とする。

第5章 会 計

第24条 この会の経費は、会費・補助金・寄付金等による。ただし、寄付金および寄付物件の受理は、委員会の承認を要する。

会費は、毎年5月1日までに各学校ごとに委員がまとめ、部会別会員名簿をそえて事務局に送付するものとする。

第25条 この会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

第6章 雑 則

第26条 この会に入会しようとするときは、所属部会を明記し、各学校ごとにまとめて、会長に通告する。

第27条 この会の規約を実施するために必要な規定は、別に定める。

第7章 附 則

第28条 この規約は昭和23年10月15日から実施する。

2. 昭和61年6月9日改正施行する。
3. 平成2年6月8日改正施行する。
4. 平成7年5月31日改正施行する。
5. 平成23年6月17日改正施行する。
6. 平成24年6月22日改正施行する。

事務局日誌抄

- 月・日
- 4・1 平成28年度高教研役員交代・補充についての依頼発送
 - 4・1 平成28年度高教研「会員募集文書」などの袋詰め作業および発送。
 - 4・6 高教研会計監査委員の派遣依頼発送
 - 4・6 高教研幹事の派遣依頼発送（校外幹事3名宛）
 - 4・13 会計監査(新潟南高校 応接室)
 - 4・13 幹事会(新潟南高校 応接室)〈理事会の準備・運営について〉
 - 4・15 「平成27年度高教研アンケート(結果報告とお願い)」発送
 - 4・20 「高教研活性化に向けた事務局案について」発送
 - 4・22 高教研理事会の開催についての依頼・案内発送
 - 5・9 予算作成作業着手
 - 5・11 理事会(新潟南高校 視聴覚教室)〈本誌「理事会記録」参照〉
 - 5・26 高教研部会幹事へ派遣依頼発送
 - 5・30 高教研委員会文書審議の依頼発送（各委員宛）
 - 6・1 一般財団法人新潟県教職員厚生財団へ教育・文化活動団体助成事業完了報告書を提出
 - 6・1 公益財団法人 日本教育公務員弘済会 新潟支部支部長へ平成28年度事業への助成について依頼
 - 6・14 新潟県教職員厚生財団より400,000円寄付
 - 6・14 部会幹事連絡会(新潟南高校 図書館)〈部会経理等について〉
 - 6・27 委員会文書審議の結果発送
 - 7・28 新潟県教育公務員弘済会より200,000円寄付
 - 10・18 新潟県教職員厚生財団理事長へ平成29年度事業への助成について依頼
 - 11・15 各部会幹事に平成28年度末「事務処理関係文書」電子メールにて発送
 - 2・1 各部会より事業報告・事業計画(案)、決算報告書、高教研年報の原稿などの到着
『高教研年報』第56号の編集作業に着手
 - 2・16 公益財団法人 日本教育公務員弘済会 新潟支部支部長へ提出
 - 3・10 各部会部長印作成
 - 3・16 「各部会会計の取扱要領(案)」電子メールにて発送
 - 3・31 『高教研年報』第56号発行

(文責 幹事・新潟南高等学校 近 優子)

編集後記

平成 28 年度の高教研の活動をまとめた「高教研年報第 56 号」をお届けいたします。

21 世紀に入り、子どもたちを取り巻く社会は加速度的に変化しています。高度情報化の動きもめざましく、AI (人工知能) がついに囲碁・将棋のトップ棋士を打ち負かし、自動車の自動運転も実用化が見えてきました。ある部分では人間の能力を超えることが明確となり、「これまで人が担っていた仕事の多くが機械に置き換わる」との予測もにわかに実感を帯びています。未来を生きる子どもたちにどのような力を身につけさせなければならぬか、改めて深く考えさせられた一年でした。

高度情報化の進展は、コミュニケーションの在り方をも一変させました。スマートフォンは広く普及し、今では欠かせないものとなっていますが、同時に、いじめ等の対人トラブルを加速させる一面も見せています。子どもたちのコミュニケーションは 24 時間絶え間なく交わされ、人間関係の進展・変化がとて速くなっています。また、SNS 等ではアクセス権限に守られ、外からは一層見えにくくなっています。生徒指導の在り方も、従来とは全く別の段階に入ったといえるでしょう。

こうした社会の変化を映すように、国の教育施策も矢継ぎ早です。平成 28 年 3 月には「高大接続システム改革会議」の最終報告が提出され、今年 2 月には次期学習指導要領の改訂案(小中学校)が示される等、次代の教育の方向性が輪郭を現しています。これを受け、高校の現場でも「主体的・対話的で深い学び」への対応や大学入学者選抜における「AO 入試・推薦入試改革」への対応等、ホットな話題に事欠かない状況となっています。

さて、このように教育環境が刻々と変化する時代にあって、「組織的・体系的な研修の場」としての高教研は、その価値を一層高めているといえるでしょう。教員が校種や年齢、専門性の垣根を越えて交流し、相互のネットワークを広げ、新たなモチベーションを得て再び自らの実践と向き合う。高教研の輪を一層大きく広げていくことは、本県高等学校教育の一層の充実につながっています。

そんな思いと裏腹に、高教研の会員数はこのところ減少傾向にあります。平成元年の 4,035 人をピークに減少に転じ、平成 25 年度には 2,000 人を切りました。会員数の減少は各部会の活動費の縮小につながり、魅力ある事業がこれまで以上に企画しにくくなっています。関係の皆様方には、会員募集に一層の御配慮をお願いいたします。

会員減に歯止めをかけるためには、高教研を活性化し魅力を高めていくことが必要です。これについては数年間かけて議論してまいりましたが、平成 28 年度に「会計制度に関する改革」として具体化いたしました。これまで「単年度決算」を原則として運営してきた本会の会計ですが、年間予算上の制限から、まとまった額を必要とする大きな事業を実施しにくい一面もありました。これを、各部会が複数年かけて活動費を積み立てることができるよう改め、まとまった予算を捻出しやすくしました。これにより、例えば著名な講師を招聘できる等、部長の裁量の幅が広がり、一層魅力的な事業展開ができるようになると期待しています。

末筆になりましたが、今年度も財団法人新潟県教職員厚生財団及び公益財団法人日本教育公務員弘済会新潟支部から御支援をいただき、本会の運営費に充てています。紙面を借りて改めて感謝申し上げます。

今年度の高教研の運営に御尽力くださった各部長様、副部長様、関係の皆様方に深く感謝申し上げるとともに、本県高等学校教育の更なる発展を祈念して編集後記といたします。

(文責・幹事：県立新潟南高等学校教頭 伊皆 嘉樹)